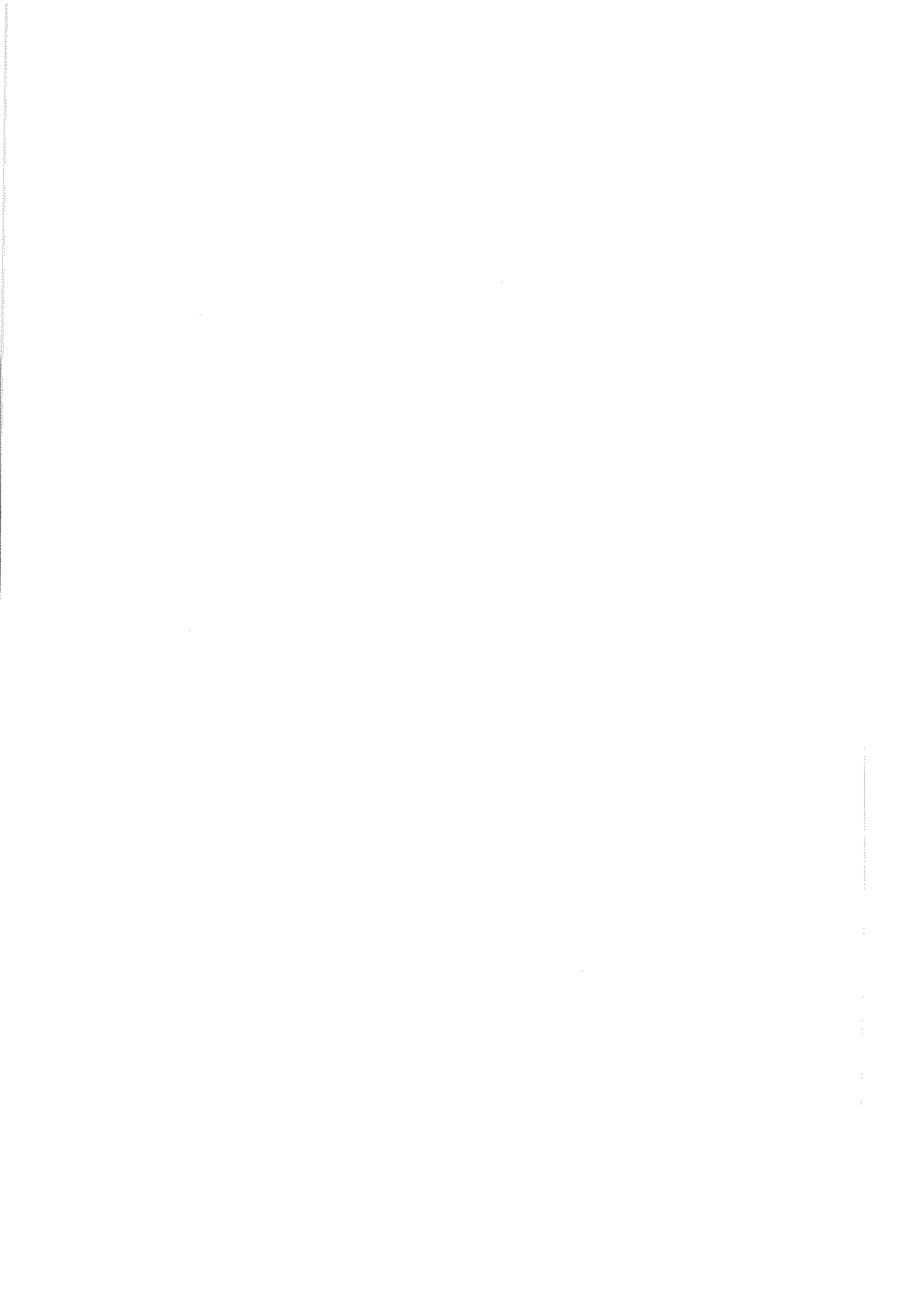


令和3年度 農業試験関係成績書

(2021年度)



令和4年(2022年)3月
岩見沢市



目 次

気 象

1	2021年一般気象・2021年雪と霜の状況	1
2	2021年農耕期間の気象経過	2

水 稲

1	水稲作況調査	3
2	発根資材効果検討試験	5
3	土壌改良資材効果確認試験	7
4	水稲直播良食味品種比較試験	9
5	水稲直播緩効性肥料試験	11
6	水稲直播土壌処理剤効果確認試験	13
7	優良品種展示圃調査成績書	15
8	《参考》岩見沢市農業試験圃水稲平年値	16

畑 作

1	秋まき小麦品種系統比較試験	17
2	きたほなみ安定確収追肥法確立試験	19
3	春まき小麦品種系統比較試験	21
4	春よ恋安定多収技術確立試験	23
5	なたね品種系統比較試験	25
6	もち麦播種量検討試験	27
7	亜麻栽培法試験	29
8	大豆優良品種決定現地調査・品種比較現地試験	31

園 芸

1	露地かぼちゃ品種比較試験	35
2	スイートコーン品種比較試験	41
3	たまねぎ硫黄被覆肥料効果確認試験（2年目）	45
4	にんじん品種比較試験（2年目）	49

2021年 一般気象

空知農業改良普及センター調べ

月	平均気温(°C) 平均		最高気温(°C) 平均		最低気温(°C) 平均		日照時間(hr) 合計		降水量(mm) 合計	
	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年
1月	-5.3	-6.2	-1.9	-2.6	-9.2	-10.5	90.2	95.9	119.4	138.0
2月	-4.6	-3.8	-0.9	-0.5	-8.9	-8.3	111.3	80.6	85.5	190.5
3月	-0.4	1.9	3.5	6.3	-4.5	-2.7	161.9	179.5	59.4	49.5
4月	6.1	6.5	11.2	11.8	1.3	1.3	176.6	214.4	52.7	108.5
5月	12.1	12.1	17.7	17.0	7.1	8.2	196.5	132.1	83.9	113.5
6月	16.3	18.0	21.7	24.1	12.0	12.9	173.6	258.5	69.5	47.0
7月	20.2	22.9	25.1	28.8	16.6	18.4	156.2	245.5	111.5	14.5
8月	21.3	21.6	26.1	26.8	17.6	17.9	158.8	163.1	161.1	95.0
9月	17.4	17.5	22.4	23.3	12.9	12.3	161.9	203.7	142.2	54.5
10月	10.8	11.0	15.7	15.9	6.2	6.1	138.5	143.5	110.4	135.5
11月	3.9	6.1	7.6	10.0	0.2	2.5	84.7	94.3	118.8	193.5
12月	-2.6	-1.8	0.5	1.3	-6.0	-5.7	69.0	75.8	144.5	164.0
5-9月 積算	2,653	3,018	3,403	3,563	1,965	2,151	847	1,003	568	325

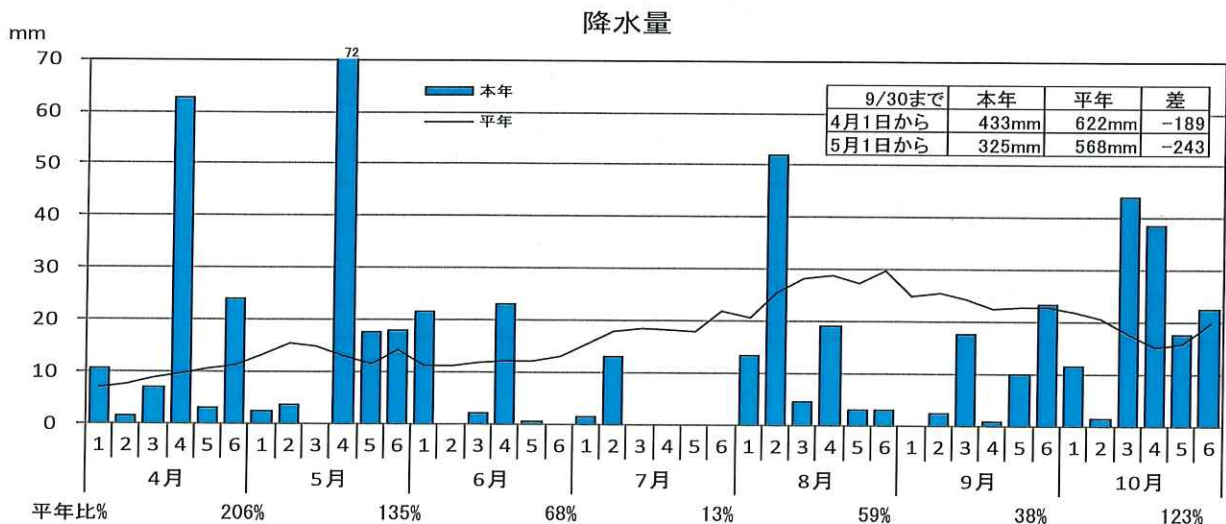
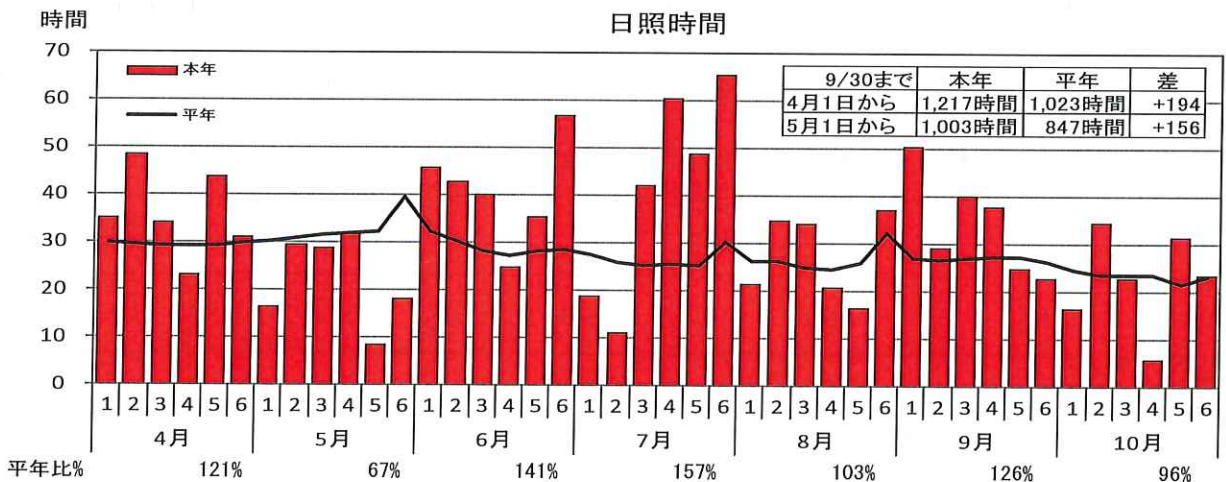
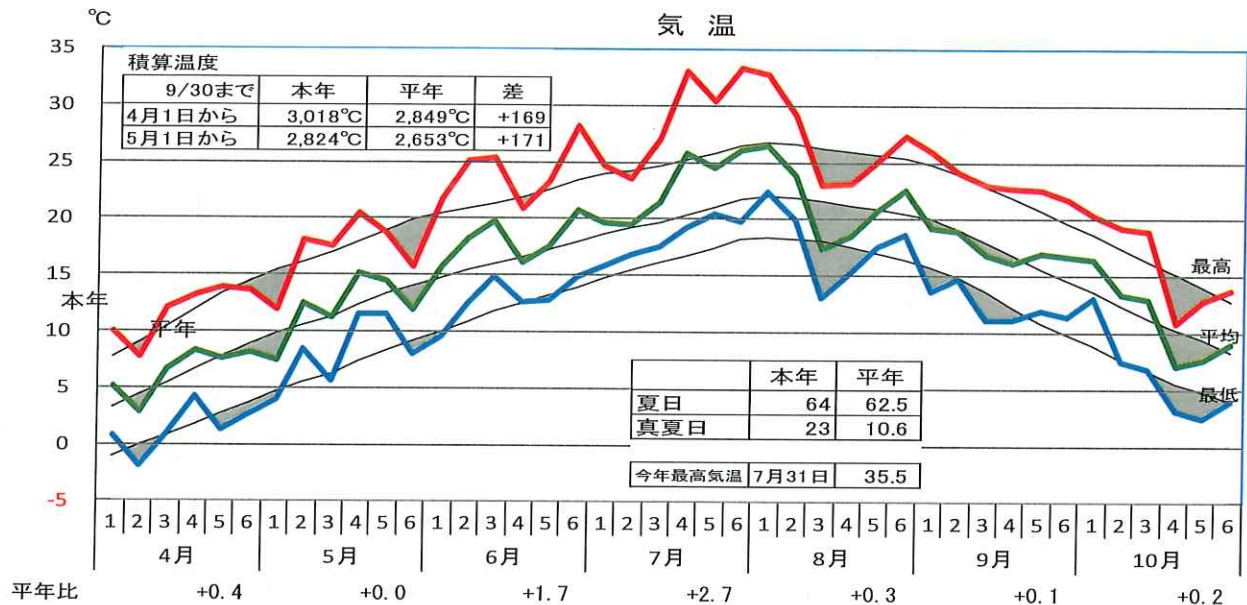
2021年 雪と霜の状況

空知農業改良普及センター調べ

年	最深積雪	同左月日	根雪終	晩霜	初霜	初雪	根雪始
平年値	126cm	2月24日	4月6日	5月3日	10月21日	11月2日	11月29日
2021年	205cm	2月25日	4月7日	5月12日	11月8日	11月26日	12月13日

2021年 農耕期間の気象経過

岩見沢アメダス



水稻作況調査

協力分担：空知農業改良普及センター

1 試験目的：主要品種の育苗型式別に生育経過や収量等を調査し、技術対策の基礎資料とする。

2 試験場所：岩見沢市農業試験圃

3 試験方法

(1) 育苗型式：成苗ポット、中苗マット

(2) 品 種：ななつぼし、ゆめぴりか、きらら397

(3) 面積及び区数：1区 43~64m²、反復なし

(4) 耕種概要：表1 播種・施肥 表2 除草剤使用状況 表3 病虫害防除

4 結果の要約

(1) 育苗期は、出芽はほぼ順調であったが生育がやや軟弱で充実度が劣り、初期生育は移植時期の低温のためかその後の分けつが進まず茎数が平年より少なくなった。6月以降は高温で経過したため、幼穂形成期は3~5日平年より早くなった。(表4)

(2) 7月も高温で推移したが8月中旬以降平年並みで気温が推移したため、出穂期で2~3日、成熟期でも3~5日平年より早くなった。登熟期の寒暖差により登熟は順調であった。(表4)
また、昨年少なかった早期異常出穂は成苗で特に多く、収量に影響するほどと思われた。

(3) 成熟期は、穂数が中苗きららでやや少なかったものの他はほぼ平年並、一穂粒数・総粒数はななつぼしで成苗・中苗ともやや多かったものの、他2品種は並~やや少なくなった。不稔歩合はほぼ平年並であった。(表5)

(4) 病虫害については、いもち病は見られず、カメムシ被害も少なかった。

(5) 精玄米重は、中苗のななつぼし(平年比103%)、ゆめぴりか(105%)以外は平年比90~97%とやや低収となった。千粒重は0.4~1.2g小さかった。(表6)

(6) 品質は、タンパクが中苗でやや低く、アミロースはゆめぴりかがやや低くなった以外ほぼ平年並みとなった。品位は、ゆめぴりかが落等(その他未熟、胴割)した以外どれも良好であった。(表6)

表1 播種・施肥

育苗型式	播種日	播種量	移植日	栽植密度		肥料区分	施肥量(kg/10a)		
				畦幅×株間(cm)	m ² 当株数		窒素	りん酸	加里
成苗ポット	4/20	90cc/箱	5/25 (35日)	33×13	23.3	全層 BB293	3.25	5.15	3.52
						側条 622	3.25	2.44	2.44
中苗マット	4/27	180cc/箱	5/25 (28日)	33×12	25.3	計	6.50	7.59	5.96

※上記のほか中苗マット播種時、培土にエコロングを施肥(75g/箱)

表2 除草剤使用状況

6月1日	HOK-1802	250g/10a
------	----------	----------

表3 病害虫防除

1回目	7月19日	ビームエイトトレボンゾル	650倍
2回目	7月30日	ダブルカットトレボンFL	1,000倍
3回目	8月6日	ブラシダントツFL	1,000倍

表4 生育調査・生育期節

区分	苗形質調査(5/22)						初期生育調査(6/21)			生育期節(月/日)			
	草丈(cm)	第一鞘高(cm)	葉数	分けつ(本)	乾物重(g)	充実度(g/cm)	草丈(cm)	茎数(本)		幼形期	出穂期	成熟期	
								株当	m ² 当				
成苗	ななつぼし	22.1	2.3	5.0	1.9	5.70	0.258	44.3	11.0	256	6/25	7/23	9/6
	ゆめぴりか	32.8	2.1	5.3	2.1	6.52	0.199	43.2	10.5	245	6/24	7/22	9/5
	きらら397	20.8	2.4	4.9	1.7	4.86	0.234	38.8	9.3	217	6/26	7/24	9/8
中苗	ななつぼし	12.3	2.3	3.5	1.0	1.96	0.159	35.2	12.4	313	6/28	7/27	9/12
	ゆめぴりか	15.7	4.1	3.5	1.0	1.94	0.124	33.1	9.3	235	6/28	7/26	9/10
	きらら397	14.6	3.4	3.1	1.0	1.80	0.123	31.1	8.4	212	6/30	7/28	9/13

表5 成熟期調査・収量構成要素

区分	成熟期調査(8/26)				一穂 粒数	m ² 当 総粒数 (千粒)	不稔 歩合 (%)	粒厚分布(mm・%)				
	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数(本)					>1.95	>1.90	>1.85	1.85<	
			株当	m ² 当								
成苗	ななつぼし	68.0	16.8	22.7	529	63.5	33.6	4.4	93.8	1.3	1.4	3.3
	ゆめぴりか	61.6	16.8	26.4	615	50.4	31.0	6.1	92.6	1.7	1.6	3.7
	きらら397	63.1	17.1	25.1	585	52.9	30.9	4.0	93.6	1.0	1.2	3.9
中苗	ななつぼし	71.9	16.4	26.7	674	59.0	39.8	2.2	94.2	1.1	1.1	3.3
	ゆめぴりか	67.3	17.1	25.8	652	45.8	29.8	8.2	93.2	1.6	1.3	3.4
	きらら397	65.0	17.1	23.6	596	50.9	30.3	5.9	93.2	0.9	0.9	4.6

表6 収量調査・品質調査

区分	10a 当り収量(kg)						籾摺 歩合 (%)	千粒重 (g)	タンパ ク(%)	アミロ ース(%)	検査 等級	
	総重	籾重	粗玄 米重	精玄 米重	平年 比	屑米 重						
成苗	ななつぼし	1,267	707	583	547	94	19	81.6	23.1	7.4	17.8	1
	ゆめぴりか	1,235	672	547	507	90	20	80.3	23.9	7.2	16.1	2下
	きらら397	1,329	765	624	584	95	24	80.7	24.3	7.3	18.4	1
中苗	ななつぼし	1,035	800	664	626	103	22	82.4	22.9	6.7	17.9	1
	ゆめぴりか	1,439	802	652	607	105	22	81.1	23.5	6.3	16.2	2中
	きらら397	1,313	787	636	593	97	29	80.2	24.3	7.0	18.2	1

※10a 当り収量は、水分15%補正(総重、籾重を除く)。精玄米重は、粒厚1.95mm以上。

※平年比は試験圃平年比

※タンパク含有率、アミロース、検査等級はJA調査値による。

発根資材効果検討試験

協力分担：朝日工業株式会社

味の素ヘルシーサプライ株式会社

1 試験目的：各種発根資材の効果を検討する。(4年目)

2 試験場所：岩見沢市農業試験圃

3 試験方法

(1) 育苗型式：中苗マット

(2) 品 種：ななつぼし

(3) 面積及び区数：1区64m² 2反復

(4) 供試資材：ア ゆめバイオ バチルス菌 ゼオライトに定着し製剤化
 育苗時に70g/苗箱層状施用及び抽出液灌注
 イ 早根早起 アミノ酸資材 500倍液育苗時灌注
 ウ 慣 行 発根資材なし

(5) 耕種概要：表1播種・施肥 表2除草剤使用状況 表3病虫害防除

4 結果の要約

(1) 10a当たり収量は、精玄米重でゆめバイオ区が慣行区に比べ92%とやや少なく、早根早起区が104%とやや多くなった。(表6)

(2) 生育の過程では、初期生育において慣行区よりかなり良好で、成熟期においてもゆめバイオ区、早根早起区の順でm²当り穂数が慣行区を上回った。(表4・5)

(3) 収量構成要素は、一穂粒数は各区ほぼ同じであったがm²当り総粒数ではゆめバイオ区が慣行区を10%程度上回った。(表5)

(4) 千粒重、タンパク、検査等級等の品質においてはほぼ同等であった。(表6)

(5) 考 察

本年は、ゆめバイオ区、早根早起区とも慣行に比べ初期生育から分けつが進み生育が良く収量構成要素も遜色なかったが、収量では早根早起区はやや良かったもののゆめバイオ区がかなり劣るという不明確な結果となった。

表1 播種・施肥

育苗型式	播種日	播種量	移植日	栽植密度		肥料区分	施肥量(kg/10a)		
				畦幅×株間(cm)	m ² 当株数		窒素	りん酸	加里
中苗マット	4/27	180cc/箱	5/25 (28日)	33×12	25.3	全層 BB293	3.25	5.15	3.52
						側条 622	3.25	2.44	2.44
						計	6.50	7.59	5.96

※上記のほか播種時、培土にエコロンを施肥(75g/箱)

表2 除草剤使用状況

6月1日	HOK-1802	250g/10a
------	----------	----------

表3 病害虫防除

1回目	7月19日	ビームエイトトレボンゾル	650倍
2回目	7月30日	ダブルカットトレボンFL	1,000倍
3回目	8月6日	ブラシンドアントツFL	1,000倍

表4 生育調査・生育期節

区分	苗形質調査(5/23)						初期生育調査(6/19)			生育期節(月/日)		
	草丈 (cm)	第一 鞘高 (cm)	葉数	分けつ (本)	乾物重 (g)	充実度 (g/cm)	草丈 (cm)	茎数(本)		幼形期	出穂期	成熟期
								株当	m ² 当			
箱施用	16.3	2.7	3.7	1.1	2.14	0.131	36.3	17.1	432	6/28	7/27	9/12
灌注	15.1	2.7	3.6	1.0	2.10	0.139	34.3	13.6	343	6/28	7/27	9/12
ゆめバイオ平均	15.7	2.7	3.7	1.1	2.12	0.135	35.3	15.4	388	6/28	7/27	9/12
早根早起	16.9	3.0	3.4	1.0	2.14	0.127	35.6	16.2	408	6/28	7/27	9/12
慣行	12.3	2.3	3.5	1.0	1.96	0.159	35.0	11.3	284	6/28	7/27	9/12

表5 成熟期調査・収量構成要素

区分	成熟期調査(9/3)				一穂 籾数	m ² 当 総籾数 (千粒)	不稔 歩合 (%)	粒厚分布(mm・%)			
	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数(本)					>1.95	>1.90	>1.85	1.85<
			株当	m ² 当							
箱施用	70.3	15.9	27.3	689	54.0	37.2	3.3	93.6	1.3	1.2	3.5
灌注	73.7	16.9	30.7	775	49.4	38.2	3.1	90.8	1.6	1.7	5.4
ゆめバイオ平均	72.0	16.4	29.0	732	51.7	37.8	3.2	92.2	1.5	1.5	4.5
早根早起	72.9	16.3	27.4	692	48.6	33.6	3.0	92.4	1.4	1.3	4.7
慣行	70.9	16.7	25.2	635	52.6	34.3	4.0	92.6	1.5	1.4	4.4

表6 収量調査・品質調査

区分	10a 当り収量(kg)						籾摺 歩合 (%)	千粒重 (g)	タンパ ク(%)	アミロ ース(%)	検査 等級
	総重	籾重	粗玄 米重	精玄 米重	比	屑米 重					
箱施用	1,380	766	628	588	92	22	81.6	22.6	6.2	18.0	1
灌注	1,406	789	652	592	92	35	81.3	22.6	6.1	19.2	1
ゆめバイオ平均	1,393	778	640	590	92	29	81.5	22.6	6.2	18.6	1
早根早起	1,549	878	724	669	104	34	81.6	22.7	6.3	18.3	1
慣行	1,490	846	696	642	100	31	81.4	22.8	6.2	18.1	1

※10a 当り収量は、水分15%補正(総重、籾重を除く)。精玄米重は、粒厚1.95mm以上。

※タンパク含有率、アミロース、検査等級はJA調査値による。

土壌改良資材効果確認試験

協力分担：株式会社エーピー・コーポレーション

- 1 試験目的：各種発根資材の効果を検討する。(初年目)
- 2 試験場所：岩見沢市農業試験圃
- 3 試験方法
 - (1) 育苗型式：中苗マット
 - (2) 品 種：ゆめぴりか
 - (3) 面積及び区数：1区 64m² 反復なし
 - (4) 供試資材：納豆菌の力(パチルス菌 耕起前 500ml(300倍)土壌灌注 処理日 5/14)
対 照：慣 行(資材なし)
 - (5) 耕種概要：表1 播種・施肥 表2 除草剤使用状況 表3 病虫害防除

4 結果の要約

- (1) 10a 当たり収量は、精玄米重で納豆菌の力区が慣行区に比べ 102%と同程度であった。(表6)
- (2) 生育の過程では、初期生育において慣行区よりかなり良好で、成熟期においてもm²当り穂数が慣行区を上回った。(表4・5)
- (3) 収量構成要素は、一穂粒数、m²当り総粒数とも納豆菌の力区が慣行区を上回った。(表5)
- (4) 千粒重、タンパク、検査等級等の品質においてはほぼ同等であった。(表6)
- (5) 考 察

本試験は、納豆菌の力区が慣行区に比べ初期生育及び成熟期の収量構成要素が明らかに上回ったが、10a 当り収量ではほぼ同等という不明確な結果となった。

表1 播種・施肥

育苗型式	播種日	播種量	移植日	栽植密度		肥料区分	施肥量(kg/10a)		
				畦幅×株間(cm)	m ² 当株数		窒素	りん酸	加里
中苗マット	4/27	180cc/箱	5/25 (28日)	33×12	25.3	全層 BB293	3.25	5.15	3.52
						側条 622	3.25	2.44	2.44
						計	6.50	7.59	5.96

※上記のほか播種時、培土にエコロングを施肥(75g/箱)

表2 除草剤使用状況

6月1日	HOK-1802	250g/10a
------	----------	----------

表3 病害虫防除

1回目	7月19日	ビームエイトトレボンゾル	650倍
2回目	7月30日	ダブルカットトレボンFL	1,000倍
3回目	8月6日	ブラシンダントツFL	1,000倍

表4 生育調査・生育期節

区分	苗形質調査(5/23)						初期生育調査(6/19)			生育期節(月/日)		
	草丈(cm)	第一鞘高(cm)	葉数	分けつ(本)	乾物重(g)	充実度(g/cm)	草丈(cm)	茎数(本)		幼形期	出穂期	成熟期
							株当	m ² 当				
納豆菌の力	15.7	4.1	3.5	1.0	1.94	0.124	38.0	15.0	379	6/28	7/26	9/10
慣行							35.4	10.5	265	6/28	7/26	9/10

表5 成熟期調査・収量構成要素

区分	成熟期調査(9/3)				一穂 籾数	m ² 当 総籾数 (千粒)	不稔 歩合 (%)	粒厚分布(mm・%)			
	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数(本)					>1.95	>1.90	>1.85	1.85<
			株当	m ² 当							
納豆菌の力	66.9	16.3	28.4	717	44.3	31.8	2.9	92.4	1.4	1.5	4.3
慣行	65.6	16.7	25.5	644	39.8	25.6	3.0	92.4	1.6	1.4	4.2

表6 収量調査・品質調査

区分	10a 当り収量(kg)						籾摺 歩合 (%)	千粒重 (g)	タンパ ク(%)	アミロ ース(%)	検査 等級
	総重	籾重	粗玄 米重	精玄 米重	比	屑米 重					
納豆菌の力	1,515	850	688	635	102	30	80.7	23.6	6.5	16.1	2上
慣行	1,481	833	677	625	100	28	80.6	23.7	6.1	17.6	2下

※10a 当り収量は、水分15%補正(総重、籾重を除く)。精玄米重は、粒厚1.95mm以上。

※タンパク含有率、アミロース、検査等級はJA調査値による。

水稻直播良食味品種比較試験

協力分担：空知農業改良普及センター

1 試験目的：乾田直播における良食味新品種の生育ステージと収量性を確認し、今後の直播栽培の資とする。(4年目)

2 試験場所：岩見沢市農業試験圃

3 試験方法

(1) 栽培方式：乾籾ドリル播種による乾田直播

(2) 品 種：ア えみまる(上育 471号) イ さんさんまる(北海 330号)

(3) 面積及び区数：1区えみまる 587m²、さんさんまる 783 m² 反復なし

(4) 耕種概要：表1 播種・施肥 表2 除草剤使用状況 表3 病虫害防除

4 結果の要約

(1) 10a 当たり収量は、えみまる 579kg(昨年比 123%)、さんさんまる 614kg(同 126%)で、さんさんまるはえみまるに比べて6%多かった。(表6)

(2) 生育状況は、出芽がえみまる 5/28、さんさんまる 5/31 でさんさんまるが3日遅かった。初期生育は順調に進んだが、生育が進むほど両品種ともムラが大きくなり調査ポイントの設定が困難になるほどであった。出穂期は、さんさんまるがえみまるに比べて1日遅かった。(表4)

(3) 品質については、タンパク、千粒重、1.95mm 網上率とも同程度となった。この他さんさんまるは、アミロースが低かったが等級で落等となった。(表5・6)

(4) 考 察

本年は、圃場全体に原因不明の極端な生育ムラが目立った中での判定となった。収量性ではこれまで通りさんさんまるが優ったが、品質的にはえみまるがやや優る結果となった。

本年の食味アンケートでは、これまで好みと答えた人がいなかったえみまるが上位に入り、今年の出来の良さが窺えた。

表1 播種・施肥

播種日	播種量 (kg/10a)	畦幅 (cm)	施肥量(kg/10a)			
			肥料名	窒素	りん酸	加里
5/7	えみまる 11.4 さんさんまる 10.6	12.5 (条播)	基肥 全層 BB211LPS	10.0	5.0	5.0

表2 除草剤使用状況

5月21日	ラウンドアップマックスロード	200mℓ/10a
	マーシエット乳	500mℓ/10a
6月11日	シンズイ豆つぶ	250g/10a
7月9日	クリンチャーバス ME液	1000mℓ/10a

表3 病虫害防除

7月30日	ダブルカットトレボン FL	1,000倍
8月6日	ブラシダントツ FL	1,000倍

表4 生育調査・生育期節

区分	出芽日	m ² 苗立数(本)	生育期節(月/日)		成熟期調査(9/6)		
			出穂期	成熟期	稈長(cm)	穂長(cm)	m ² 当穂数(本)
えみまる	5/28	184	7/30	9/17	80.9	18.5	704
さんさんまる	5/31	200	7/31	9/18	57.7	16.4	812

表5 成熟期調査・収量構成要素

区分	一穂粒数	m ² 当総粒数(千粒)	不稔歩合(%)	粒厚分布(mm・%)			
				>1.95	>1.90	>1.85	1.85<
えみまる	45.8	32.3	8.3	93.9	1.6	1.4	2.8
さんさんまる	51.6	41.9	12.4	93.1	1.7	1.4	3.4

表6 収量調査・品質調査

区分	10a 当り収量(kg)						籾摺歩合(%)	千粒重(g)	タンパク(%)	アミロース(%)	検査等級
	総重	籾重	粗玄米重	精玄米重	比	屑米重					
えみまる	1,350	765	616	579	100	17	80.4	24.1	7.0	17.3	1
さんさんまる	1,410	798	660	614	106	22	82.4	23.9	7.2	16.5	2上

※10a 当り収量は、水分 15%補正(総重、籾重を除く)。精玄米重は、粒厚 1.95mm 以上。
 ※タンパク含有率、アミロース、検査等級は JA 調査値による。

《参考》

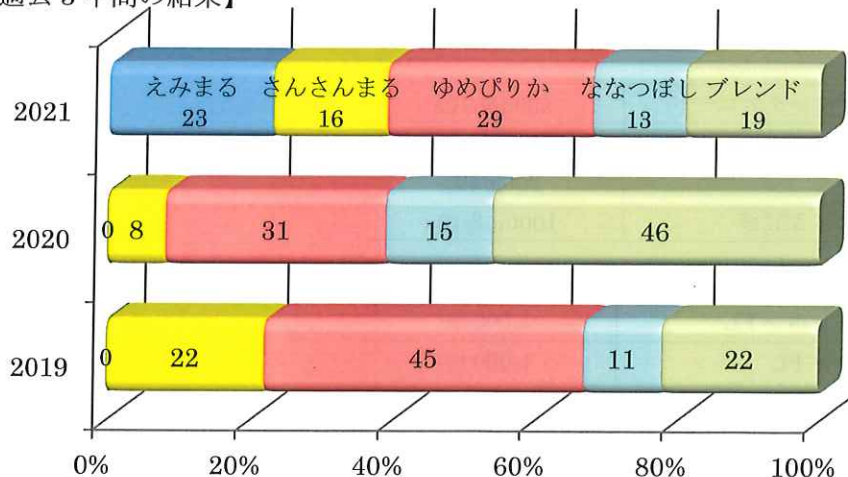
2021年 食味「どれが好き？」アンケートの結果

○実施方法 品種 ①えみまる ②さんさんまる ③ゆめぴりか ④ななつぼし ⑤ブレンド
 方法 品種をブラインドにし、好みを答えてもらう

○結果 (有効回答 31 (100%))

品種	えみまる タンパク 6.5 前後	さんさんまる タンパク 6.6 前後	ゆめぴりか タンパク 6.5 前後	ななつぼし タンパク 6.4 前後	ブレンド (ななつ 30さんさ 40 えみま 20その他 10) タンパク 6.6 前後
回答数	7 (23)	5 (16)	9 (29)	4 (13)	6 (19)

【過去3年間の結果】



○3年間の総合成績では、ゆめぴりか、ブレンド、さんさんまる、ななつぼし、えみまるの順で好みと答えた人が多かった。
 ○本年は、昨年まで好みの答えがなかったえみまるを好みとする答えが多くなった。

水稻直播緩効性肥料試験

協力分担：空知農業改良普及センター

1 試験目的：乾田直播・良食味品種に対する新緩効性肥料の適性を確認する。(2年目)

2 試験場所：岩見沢市農業試験圃

3 試験方法

(1) 栽培方式：乾籾ドリル播種による乾田直播

(2) 品種・区別：ア えみまる 11kg 播種区 イ えみまる 9kg 播種区 ウ さんさんまる区

(3) 面積及び区数：1区 109 m²~162 m²、反復なし

(4) 供試肥料：ア HB030DLS イ UF894 対照 BB211LPS

(5) 耕種概要：表1 播種・施肥 表2 除草剤使用状況 表3 病虫害防除

4 結果の要約

(1) 収量は、BB211LPS 施用区に対しHB030DLS 区がえみまるで93%、さんさんまるで103%、UF894 区がえみまるで86%、さんさんまるで101%となった。(表6)

(2) 生育調査では、HB030DLS 区がえみまるで初期生育のm²当莖数、成熟期のm²当穂数がやや多くなり、さんさんまるでは逆にやや少なくなった。UF894 区は、えみまるのm²当穂数がやや少なくなったが、さんさんまるでは初期のm²当莖数、成熟期のm²当穂数は多くなった。m²当総籾数は、えみまるのUF894 区、さんさんまるのHB030DLS 区が少なかった。また、えみまるのUF894 区で不稔歩合が少なかった。(表4・5)

(3) 品質については、いずれも大きな違いはなかったが、UF894 区のタンパクがわずかに高い傾向であった。等級は、さんさんまるが3上となった。(表6)

(4) 考察

本年は、原因不明の激しい生育ムラがみられたため調査の精度に問題があった。次年度ムラのない状態での確認が必要である。

表1 播種・施肥

播種日	播種量 (kg/10a)		畦幅 (cm)	施肥量(kg/10a)				
				肥料名	窒素	りん酸	加里	
5/7	えみまる	10.5	12.5 (条播)	基肥 全層	HB030DLS	10.0	6.5	5.0
	えみまる	9.6			UF894	10.0	5.0	7.8
	さんさんまる	10.6			BB211LPS	10.0	5.0	5.0

表2 除草剤使用状況

5月21日	ラウンドアップマックスロード	200mℓ/10a
	マーシエット乳	500mℓ/10a
6月24日	クリンチャー粒	1kg/10a
7月9日	クリンチャーバス ME液	1000mℓ/10a

表3 病虫害防除

7月30日	ダブルカットレボン FL	1,000倍
8月6日	ブラシンドントツ FL	1,000倍

表4 生育調査・生育期節

区分	苗立数 (本/m ²)	初期生育 (6/21)		生育期節(月/日)		成熟期調査 (8/26)		
		草丈(cm)	m ² 当莖数	出穂期	成熟期	稈長(cm)	穂長(cm)	m ² 当穂数
えみまる 11kg 播種区	272	24.6	444	8/3	9/17	72.8	16.3	832
えみまる 9kg 播種区	196	22.0	340	8/3	9/17	69.3	16.9	852
HB030DLS 平均	234	23.3	392	8/3	9/17	71.0	16.6	842
えみまる 11kg 播種区	160	23.5	396	8/3	9/17	72.8	16.3	772
えみまる 9kg 播種区	224	21.7	316	8/3	9/17	67.3	16.9	688
UF894 平均	192	22.6	356	8/3	9/17	70.1	16.6	730
えみまる 11kg 播種区	244	25.2	8/3	8/3	9/17	73.2	16.7	824
えみまる 9kg 播種区	196	25.3	8/3	8/3	9/17	74.1	16.9	756
BB211LPS 平均	220	25.2	350	8/3	9/17	73.6	16.8	790
HB030DLS さんさんまる	160	20.4	244	8/5	9/18	62.1	17.0	692
UF894 さんさんまる	220	19.0	404	8/5	9/18	62.0	16.3	956
BB211LPS さんさんまる	196	22.2	260	8/5	9/18	68.2	17.8	760

表5 成熟期調査・収量構成要素

区分	一穂粒数	m ² 当総粒数 (千粒)	不稔歩合 (%)	粒厚分布(mm・%)				倒伏割合 (%)
				>1.95	>1.90	>1.85	1.85<	
えみまる 11kg 播種区	57.0	47.4	13.3	90.0	2.2	1.9	5.5	90
えみまる 9kg 播種区	76.2	64.9	10.4	94.0	1.6	1.3	2.8	80
HB030DLS 平均	66.6	56.2	11.9	92.0	1.9	1.6	4.2	-
えみまる 11kg 播種区	48.5	37.5	7.6	92.9	2.0	1.7	3.1	60
えみまる 9kg 播種区	52.6	36.2	3.4	94.4	1.3	1.0	1.9	40
UF894 平均	50.6	36.8	5.5	93.7	1.7	1.4	2.5	-
えみまる 11kg 播種区	80.6	66.5	7.4	93.3	1.7	1.7	2.9	70
えみまる 9kg 播種区	56.9	43.0	10.5	90.9	1.7	1.7	5.2	80
BB211LPS 平均	68.8	54.7	8.9	92.1	1.7	1.7	4.1	-
HB030DLS さんさんまる	50.9	35.2	9.4	94.5	1.2	1.1	2.9	5
UF894 さんさんまる	52.3	50.0	11.4	91.4	1.6	1.7	4.9	微
BB211LPS さんさんまる	76.3	58.0	13.9	93.4	1.5	1.4	3.3	微

表6 収量調査・品質調査

区分	10a 当り収量(kg)						籾摺歩 合(%)	千粒 重(g)	タンパ ク(%)	アミロ ース (%)	検査 等級
	総重	籾重	粗玄米重	精玄米重	比	屑米重					
えみまる 11kg 播種区	1,155	665	546	491	-	30	81.6	22.7	6.2	17.6	1
えみまる 9kg 播種区	1,490	875	724	681	-	20	82.0	23.6	6.1	18.7	1
HB030DLS 平均	1,323	770	635	586	93	25	81.8	23.2	6.2	18.2	1
えみまる 11kg 播種区	1,370	785	652	606	-	20	82.2	23.5	6.6	18.6	1
えみまる 9kg 播種区	1,130	633	503	475	-	10	79.4	23.6	7.0	17.2	1
UF894 平均	1,250	709	577	540	86	15	80.8	23.6	6.8	17.9	1
えみまる 11kg 播種区	1,260	690	572	533	-	17	82.2	23.0	6.2	18.1	1
えみまる 9kg 播種区	1,670	960	793	720	-	41	82.6	23.0	6.5	17.1	1
BB211LPS 平均	1,465	825	682	627	100	29	82.4	23.0	6.4	17.6	1
HB030DLS さんさんまる	1,510	895	736	695	103	21	82.1	23.7	6.5	16.4	3上
UF894 さんさんまる	1,480	860	744	680	101	36	85.5	23.5	6.6	18.0	3上
BB211LPS さんさんまる	1,500	878	724	676	100	15	82.1	24.0	6.2	17.5	3上

※10a 当り収量は、水分15%補正(総重、籾重を除く)。精玄米重は、粒厚1.95mm以上。
 ※タンパク含有率、アミロース、検査等級はJA調査値による

水稻直播土壤処理剤効果確認試験

協力分担：空知農業改良普及センター
クミアイ化学工業株式会社

1 試験目的：乾田直播における省力化、落水による窒素溶脱回避のための土壤処理剤の適正使用方法を確認する。(4年目)

2 試験場所：岩見沢市農業試験圃

3 試験方法

(1) 除草剤処理方法

処理日 5/21 (播種日 5/7 初入水 5/10 出芽日 えみまる 5/28 さんさんまる 5/31)

区別 処理剤及び処理量

①MS+RU 区	マーシエット乳剤(500ml/10a) + ラウンドアップ(200ml/10a)
②SB+RU 区	サターンバアロ乳剤(800ml/10a) + ラウンドアップ(200ml/10a)
③MS 区	マーシエット乳剤(500ml/10a)
④SB 区	サターンバアロ乳剤(800ml/10a)
⑤無処理区	

(2) 調査方法：調査日 6月10日 - 50cm 枠により残草及苗立本数・葉害を調査 3反復

播種日にノビエ及びスズメノカタビラ種子を播種した個所を達観にて残草調査

(3) 品 種：えみまる及びさんさんまる

(4) 面積及び区数：1区 79.2m² (4m×19.8m) 反復なし 雑草播種各区 0.8 m² (0.2m×4m) 2反復

(5) 耕種概要：表1 播種・施肥

4 結果の要約

(1) 残草調査の結果、ノビエに対しては、SB+RU 区、MS 区が 0、SB 区は無処理区対比 1~2%とかなり抑えたが、MS+RU 区においては 7%とやや取りこぼしが目立った。(表 2)

(2) スズメノカタビラについては、SB+RU 区、SB 区が 0 とサターンバアロ乳剤が良く抑えていたが、MS 区(無処理区対比 20)、MS+RU 区(同 7)のマーシエット剤はやや抑えきれていないと思われた。(表 2)

(3) 雑草種子を播種した個所の抑草割合を見ると、ノビエは各区とも 80%以上と良く抑えていたが、スズメノカタビラの抑草効果はマーシエット乳剤が半分程度であった。(表 2)

(4) 苗立本数を指標とした葉害調査では、各区とも出芽抑制といった葉害はなかった。(表 3)

(5) 考 察

今回の試験では、これまで行ってきたマーシエット乳剤の土壤処理効果に対しサターンバアロ乳剤が同等以上の効果を示すことが分かった。また、マーシエット乳剤がスズメノカタビラに効果が弱いこと、ラウンドアップをプラスする効果はそんなに大きくないことなども見て取れた。

表1 播種・施肥

播種日	播種量 (kg/10a)	畦幅 (cm)	施肥量(kg/10a)			
			肥料名	窒素	りん酸	加里
5/7	えみまる 11.4 さんさんまる 10.6	12.5 (条播)	基肥 全層 BB211LPS	10.0	5.0	5.0

表2 m²当たり残草調査結果

区分	残草結果 (本/m ² (無処理対比%))			雑草種子播種箇所の抑草割合(%)	
	ノビエ	スズメノ カタビラ	広葉雑草等	ノビエ	スズメノ カタビラ
①MS+RU	6.7 (7)	1.3 (7)	16.0 (12)	80	55
②SB+RU	0.0 (0)	0.0 (0)	5.3 (4)	85	88
③MS	0.0 (0)	4.0 (20)	36.0 (26)	99	40
④SB	1.3 (1)	0.0 (0)	8.0 (6)	99	96
⑤無処理区	102.9 (100)	20.0 (100)	137.1 (100)	—	—

※MS:マーシエット乳剤 SB:サターンバアロ乳剤 RU:ラウンドアップマックスロード

表3 薬害 (苗立数) 調査結果

区分	苗立本数 (本/m ² (比))
①MS+RU	204 (102)
②SB+RU	225 (113)
③MS	200 (100)
④SB	213 (107)
⑤無処理区	200 (100)

優良品種展示圃調査成績書

No.	品種名	命名年	育成地	出穂月日	成熟月日	10a 当り収量(kg)			千粒重(g)
						粗玄米重	精玄米重		
							1.95mm 上	1.85mm 上	
1	赤毛	-	-	7/22	9/5	515	437	488	21.7
2	富国	1935	上川	7/25	9/9	740	699	707	24.0
3	農林 20 号	1941	北海	7/22	9/5	675	642	652	24.4
4	石狩白毛	1941	上川	7/22	9/5	505	490	495	23.3
5	ユーカラ	1962	北海	7/28	9/13	596	573	585	23.8
6	そらち	1967	空知	7/26	9/10	736	716	722	23.5
7	キタヒカリ	1975	北海	7/26	9/10	490	467	478	23.7
8	ゆきひかり	1984	空知	7/26	9/10	487	450	469	23.3
9	彩	1991	道北	7/25	9/9	482	459	465	24.6
10	ほしのゆめ	1996	上川	7/23	9/6	447	422	434	24.2
11	あやひめ	2000	上川	7/20	9/4	503	479	489	23.3
12	ふっくりんこ	2002	渡島	7/24	9/8	650	600	619	24.6
13	おぼろづき	2003	北海	7/20	9/4	603	542	567	23.3
14	えみまる	2019	上川	7/19	9/3	613	569	589	24.2
15	さんさんまる	2018	北海	7/19	9/3	529	502	512	23.8
16	吟風	1999	空知	7/23	9/6	620	599	602	26.6
17	彗星	2006	空知	7/22	9/5	579	568	571	27.5
18	たちじょうぶ	2011	北海	7/28	9/13	758	684	702	24.2
19	北瑞穂	2012	北海	7/26	9/10	699	610	631	23.8
20	紫稲	-	-	7/26	9/10	425	400	408	23.4

耕種概要

育苗法	播種日	移植日	施肥量 (kg/10a)			栽培密度		防除
			窒素	りん酸	加里	畦幅×株間(cm)	m ² 当たり株数(株)	
成苗ポット 手植	4/20	5/25	7.0	11.0	7.5	33×14	21.6	3 回

《参 考》 岩見沢市農業試験圃水稻平年値(2015~21年の7中5) ※直播は2018~21年の4年平均

項目\品種 [直播]	成 苗			中 苗			直 播		
	ななつぼし	きらら397	ゆめぴりか	ななつぼし	きらら397	ゆめぴりか	えみまる	さんさんまる	
播種日	4/20	4/20	4/20	4/24	4/25	4/24	5/9	5/9	
移植日 [出芽日]	5/23	5/23	5/24	5/23	5/23	5/23	5/31	6/2	
育苗日数	34	33	34	29	29	29	-	-	
苗 質	草 丈 (cm)	18.3	16.4	19.1	14.0	12.2	14.2	-	-
	第一鞘高(cm)	2.1	2.3	2.7	2.8	2.4	3.1	-	-
	葉 数	4.7	4.8	4.4	3.3	2.7	3.4	-	-
	分けつ数	1.1	1.4	1.3	0.4	0.4	0.4	-	-
	乾物重 (g)	5.268	4.468	5.644	2.392	1.968	2.460	-	-
	充実度	0.290	0.277	0.318	0.171	0.129	0.176	-	-
活着期	5/28	5/28	5/29	5/28	5/29	5/28	-	-	
分けつ始期	6/7	6/7	6/7	6/7	6/7	6/7	-	-	
初 期 生 育	調査月日	6/21	6/21	6/20	6/21	6/21	6/21	6/21	
	草 丈 (cm)	38.7	34.6	40.3	33.9	31.5	33.9	17.9	16.3
	茎数/株 [苗立数]	14.9	13.5	16.7	15.5	14.8	15.1	277	245
	茎数/m ²	348	316	388	391	373	373	371	318
7/1	草 丈 (cm)	47.2	41.7	47.9	42.0	38.6	42.0	-	-
	茎数/株	23.7	21.5	25.6	26.8	28.7	26.8	-	-
	茎数/m ²	552	502	596	677	725	677	-	-
8/1	草 丈 (cm)	86.7	79.2	84.7	89.0	83.4	87.4	-	-
	茎数/株	24.1	23.3	26.2	26.7	28.8	27.4	-	-
	茎数/m ²	563	542	611	673	728	693	-	-
幼形期	6/26	6/29	6/26	7/2	7/3	7/2	7/11	7/13	
止葉期	7/14	7/20	7/15	7/21	7/22	7/20	-	-	
出穂始	7/22	7/25	7/21	7/27	7/28	7/26	8/1	8/1	
出穂期	7/26	7/27	7/24	7/29	7/30	7/28	8/3	8/3	
出穂揃	7/29	7/30	7/27	8/1	8/1	7/31	8/6	8/6	
成熟期	9/10	9/13	9/8	9/16	9/17	9/15	9/24	9/24	
成 熟 期	稈 長 (cm)	69.9	64.8	67.3	75.0	67.3	70.9	69.0	65.2
	穂 長 (cm)	16.7	16.8	16.5	16.6	16.4	16.8	15.1	15.4
	穂数/株 [m]	23.6	25.1	26.2	25.8	26.6	26.5	100.7	97.4
	穂数/m ²	549	584	611	651	672	668	805	779
一穂籾数	52.6	54.2	47.0	55.1	49.1	48.4	52.4	51.2	
籾数/m ² (千粒)	28.9	31.5	29.0	35.9	33.0	32.4	42.5	38.9	
不稔歩合 (%)	5.0	5.1	4.4	4.8	8.2	6.8	7.7	10.2	
収 量 調 査 10a 当	総 重 (kg)	1,761	1,371	1,368	1,411	1,426	1,499	1,353	1,440
	籾 重 (kg)	955	784	737	799	808	809	717	799
	粗玄米重(kg)	599	651	597	651	645	650	581	659
	精玄米重(kg)	563	608	556	603	596	587	506	589
	屑米重 (kg)	17	24	16	25	29	33	32	35
	籾摺歩合(%)	81.7	82.1	80.3	81.1	79.5	80.1	80.0	81.6
千粒重 (g)	24.1	25.3	24.5	23.7	25.2	24.8	24.0	24.7	
粒 厚 分 布	>1.95 (%)	94.0	93.4	93.2	92.6	92.4	90.4	87.1	89.6
	>1.90 (%)	1.4	1.4	2.1	1.8	1.5	2.4	3.7	2.6
	>1.85 (%)	1.4	1.2	1.7	1.4	1.3	2.0	3.3	2.3
	1.85< (%)	2.9	3.7	2.7	3.9	4.5	5.0	5.5	5.2
タンパク (%)	7.0	7.3	7.3	7.1	7.3	6.9	6.8	6.8	
アミロース (%)	18.3	18.6	17.4	18.0	18.0	17.3	18.4	18.0	

秋まき小麦品種系統比較試験

協力分担：空知農業改良普及センター

1 試験目的：秋まき小麦の品種系統の地域適応性を検討する。

2 試験場所：岩見沢市農業試験圃

3 試験方法

(1) 供試品種：北海 266 号(2年目)～超強力、耐穂発芽 対照:ゆめちから
 北海 267 号(新規)～強力、耐穂発芽 対照:ゆめちから 参考:キタノカオリ

(2) 面積及び区数：1区面積 7.2 m² 2反復

(3) 耕種概要：表 1 播種 表 2 窒素施肥 表 3 防除

4 結果の要約

(1) 北海 266 号は、生育期節が昨年同様ゆめちからより 1～2 日遅く、収量がゆめちから比 68% (昨年 87%) とかなり低くなった。また、タンパクも 11.3 (昨年 12.4) と低くなった。(表 4・5)

(2) 北海 267 号の生育期節は、ゆめちからに比べ同等～1 日早く、収量はゆめちから比 91% であった。また、タンパク、容積重はほぼ同等であったが、千粒重はやや小さかった。(表 4・5)

(3) 病虫害等では、積雪が多かったため冬損害が微～少発生となった。また、うどんこ病がどの品種も微発生であった。(表 4)

(4) 考察

超強力小麦の北海 266 号は、収量性がゆめちからに比べ昨年が続いてかなり劣る結果となっており有望性はかなり低いと思われた。また、強力小麦である北海 267 号は、キタノカオリと同等の収量性であり穂発芽に強くなれば栽培面での優位性は高いと思われるが、味、香り、粉色等で評価を得ているキタノカオリに代替できるかとなれば厳しいと思われる。

表 1 播種

前作物	播種			畦幅
	月日	量	方法	
春小麦	9/24	240 粒/m ²	手播	30 cm

表 2 窒素施肥 (kg/10a)

時期	窒素量	摘要
基肥(9/24)	4.0	BB082M
起生期(4/16)	6.3	硫安
幼形期(5/2)	6.3	硫安
止葉期(5/27)	4.2	硫安

表3 防除

月日	対象病害虫	使用薬剤
11/17	雪腐病	ランマン F(250倍) フロンサイド SC(250倍)
5/14	赤さび病	ミリオネア F(4,000倍)
6/14	赤かび病	バラライカ水(500倍)
6/22	赤かび病・アブラムシ	ベフラン液(1,000倍) ゲットアウト WDG(3,000倍)
6/28	赤かび病・アブラムシ	シルバキュア F(2,000倍) バイスロイド(2,000倍)

表4 生育調査・病害及び諸障害発生調査

品種名	出芽 良否	生育期節 (月/日)			成熟期における			病害及び諸障害発生程度				
		出穂期	開花期	成熟期	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	冬損	赤さび 病	うどんこ 病	赤かび 病	倒伏
北海 266号	良	6/8	6/13	7/17	69	9.2	591	少	少	微	無	無
北海 267号	良	6/5	6/12	7/17	67	9.3	570	微	少	微	無	無
ゆめちから	良	6/6	6/12	7/18	70	9.5	586	少	少	微	無	無
キタノカオリ	良	6/11	6/15	7/19	74	9.7	561	少	中	微	無	無

表5 収量・品質調査

品種名	収穫 月日	10a 当り収量				品質				用途
		粗麦重 (kg)	精麦重 (kg)	比率 (%)	歩留 (%)	千粒重 (g)	容積重 (g/l ²)	蛋白質 含有率	検査 等級	
北海 266号	7/20	509	489	68	96.0	44.1	854	11.3	1	パン・中華めん用
北海 267号	7/20	650	647	91	99.5	42.4	861	12.9	1	
ゆめちから	7/20	719	714	100	99.3	43.5	866	13.1	1	
キタノカオリ	7/20	673	658	92	97.7	41.9	854	13.0	-	

※精麦重：2.2mm 網上、水分 12.5%換算値

(参考)

評価項目	用途	基準値	許容値	主な品種名
蛋白質 含有率	菓子・日本めん用小麦	9.7% 以上 11.3% 以下	8.5% 以上 12.5% 以下	きたほなみ、北見 95号
	パン・中華めん用小麦	11.5% 以上 14.0% 以下	10.0% 以上 15.5% 以下	ゆめちから、キタノカオリ (北海 266号) (北海 267号)
容積重	菓子・日本めん用小麦	840 g/l ² 以上	—	きたほなみ、北見 95号
	パン・中華めん用小麦	833 g/l ² 以上	—	ゆめちから、キタノカオリ (北海 266号) (北海 267号)

きたほなみ安定確収追肥法確立試験

協力分担：道総研 中央農試
空知農業改良普及センター

1 試験目的：受光体制を整え歩留まりを上げる安定多収追肥法確立の資とする。(2年目)

2 試験場所：岩見沢市農業試験圃

3 試験方法

(1) 供試品種：きたほなみ

(2) 追肥方法：ア 全量起生期 (硫安 N6.3kg/10a)

イ 全量幼穂形成期 (硫安 N4.0kg/10a)

ウ 葉色管理 (葉色により追肥時期を判断、硫安 N4.0kg/10a)

※全区に止葉期追肥 (硫安 N4.0kg/10a)

(3) 面積及び区数：1区面積 7.2 m² 2反復

(4) 耕種概要：表1 播種 表2 施肥月日 表3 防除

4 結果の要約

(1) 10a 当収量は、全量起生期区と比べ全量幼形期区 100、葉色管理区 97 とほぼ同程度という結果となった。(表5)

(2) 生育過程は、融雪が遅かったことから冬損ダメージが大きく、起生期は8日遅れの4/14、その後幼形期は平年並み(5/2)に戻したものの、止葉期は5/30、出穂期6/7と平年より4日遅くなった。茎数の推移は、幼形期こそ1100~1200本/m²台あったもののその後分けつが増えず最終穂数で全量起生期区473本/m²、葉色管理区539本/m²とかなり少なくなった。(表4)

(3) 品質においては、千粒重が最も穂数の多かった葉色管理区でも42.2g、最も穂数の少なかった全量起生期区が43.4gとかなり大きくなった。(表5)

(4) まとめ

本年は、積雪のダメージが大きかったためその後の生育がスムーズでなく、茎数がかかなり少ない、区の差もあまりない状態で経過したものの千粒重が大きく、収量的にはあまり平年と遜色のない結果となった。

表1 播種

前作物	播種月日	量	方法	畦幅
春小麦	9/24	200粒/m ²	手押し式 播種機	30cm

表2 施肥月日

施肥		月日
基肥	BB082M	9/24
起生期追肥	硫安	4/16
幼形期追肥	硫安	5/2
葉色管理	硫安	5/10
止葉期追肥	硫安	5/27

表3 防除

月日	対象病害虫	使用薬剤
5/14	赤さび病	ミリオネア F(4,000倍)
6/14	赤かび病	バラライカ水(500倍)
6/22	赤かび病 アブラムシ	ベフラン液(1,000倍) ゲットアウト WDG(3,000倍)
6/28	赤かび病 アブラムシ	シルバキュア F(2,000倍) バイスロイド(2,000倍)

表4 生育調査・病害及び諸障害発生調査

区分	出芽 良否	生育期節 (月/日)				茎数(上段、本/m ²) 葉色(下段)					成熟期		倒伏
		起生期	幼形期	止葉期	出穂期	起生期 (4/14 調査)	(4/22 調査)	幼形期 (5/6 調査)	(5/10 調査)	止葉期 (5/27 調査)	穂数	稈長 穂長	
全量起生期	良	4/14	5/2	5/30	6/7	34.3	1,174 39.6	789 37.8	42.3	473 49.4	448	75.5 8.6	無
全量幼形期	良	4/14	5/2	5/30	6/7	37.3	1,260 42.9	957 41.8	41.8	534 46.3	492	76.0 8.5	無
葉色管理	良	4/14	5/2	5/30	6/7	37.8	1,147 40.7	775 39.5	39.8	539 50.1	507	77.0 8.6	無

表5 収量・品質調査

区分	収穫 月日	10 a 当り収量				品質		
		粗麦重 (kg)	精麦重 (kg)	比率 (%)	網上率 (%)	千粒重 (g)	タンパク (%)	容積重 (g/L)
全量起生期	7/20	711	685	100	96.4	43.4	9.4	843
全量幼形期	7/20	733	685	100	93.5	42.7	9.6	846
葉色管理	7/20	722	664	97	91.9	42.2	9.6	840

※精麦重：2.2mm 網上。

図 穂揃い期 上から見た様子



春まき小麦品種系統比較試験

協力分担：空知農業改良普及センター

1 試験目的：春まき小麦の品種系統の地域適応性を検討する。

2 試験場所：岩見沢市農業試験圃

3 試験方法

(1) 供試品種：なし 対照：春よ恋 比較：はるきらり

(2) 面積及び区数：1区面積7.2㎡ 2反復

(3) 耕種概要：表1播種 表2窒素施肥 表3防除

4 結果の要約

(1) 10a当り収量は、はるきらりが499kgで春よ恋対比116%となった。(表5)

(2) 生育の経過は、はるきらりが春よ恋に対し止葉期で1日、出穂期で2日早かった。成熟期の茎数は、春よ恋が524本/㎡とはるきらりより4%多かった。(表4・5)

(3) 病虫害では、赤さび病がやや多く発生し、中でも春よ恋がやや多かった。(表4)

(4) 品質は、歩留まり、千粒重、容積重ではるきらりが春よ恋に優り、タンパク含量は春よ恋が13.6%とはるきらりの12.9%より高かった。(表5)

(5) 考察

本年は供試新品種がなかったため、従来品種の生育観察となった。

表1 播種

前作物	播種			畦幅
	月日	量	方法	
南瓜	4/28	340粒/㎡	手押し式 播種機	30cm

表2 窒素施肥 (kg/10a)

時期	窒素量	摘要
基肥(4/28)	8.0	BB082M
止葉期(6/16)	4.2	硫安
葉面①(6/30)	0.9	尿素
葉面②(7/7)	0.9	尿素
葉面②(7/12)	0.9	尿素

表3 防除

月日	対象病虫害	使用薬剤
6/9	うどんこ病	ユニックス顆粒水(700倍)
6/28	赤かび病	バラライカ水(500倍)
7/7	赤かび病	ベフラン液(1,000倍)
7/8	赤さび病、アブラムシ	アミスター(2,000倍)ゲットアウト WDG(3,000倍)
7/12	赤かび病、アブラムシ	シルバキュア F(2,000倍)バイスロイド(2,000倍)

表4 生育調査・病害及び諸障害発生調査

品種名	出芽 良否	生育期節 (月/日)			成熟期における			病害及び諸障害発生程度				
		幼形期	止葉期	出穂期	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	赤さび 病	うどん こ病	赤かび 病	穂発芽	倒伏
春よ恋	良	6/3	6/15	6/23	96	8.9	524	中	少	無	無	無
はるきらり	良	6/3	6/14	6/21	89	8.2	505	少	少	無	無	無

表5 収量・品質調査

品種名	収穫 月日	10 a 当り収量				品質		
		粗麦重 (kg)	精麦重 (kg)	比率 (%)	歩留 (%)	千粒重 (g)	容積重 (g/l ²)	蛋白質 含有率
春よ恋	8/4	442	432	100	97.7	44.2	864	13.6
はるきらり	8/4	504	499	116	99.1	46.2	870	12.9

※精麦重：2.2mm 網上、水分 12.5%換算値。

春よ恋安定多収技術確立試験

協力分担：道総研 中央農試
ホクレン農総研

- 1 試験目的：植物成長調整剤の使用を前提とした高品質安定多収技術確立の資とする。(3年目)
- 2 試験場所：岩見沢市農業試験圃
- 3 試験方法
 - (1) 供試品種：春よ恋
 - (2) 植物成長調整剤：サイコセル 6 葉期前後 (6/11) 150ml/10a
 - (3) 施肥方法： (窒素 kg/10a)

区分	基 肥	幼形期	止葉期	穂揃い期	葉面散布	合計
基肥のみ	8	0	0	0	0	8
基肥増	12	0	0	0	0	12
幼形期追肥	8	4	0	0	0	12
止葉期追肥	8	0	4	0	0	12
穂揃い期追肥	8	0	0	4	0	12
葉面散布	8	0	0	0	3	11

- (4) 面積及び区数：1 区面積 7.2 m² 2 反復
- (5) 耕種概要：表 1 播種 表 2 施肥月日 表 3 防除

4 結果の要約

- (1) 10a 当収量は、基肥窒素 8kg のみの区と比べ基肥増区が 110%と多くなり、幼形期追肥区 (98)、止葉期追肥区(100)、葉面散布区(102)は同程度、穂揃い期追肥区が 93%と少なくなった。(表 5)
- (2) 生育過程は、出芽は順調で、幼形期の茎数は基肥増区が明らかに多くなったが、成熟期の最終穂数は基肥のみ区が多くなった。遅れ穂は、昨年、一昨年より少ない傾向で各区あまり差がなかったが、穂揃い期追肥区(5.4%)では明らかに少なかった。(表 4)
- (3) 品質においては、網上率、千粒重に大きな違いはなかったが、蛋白含有率は止葉期追肥区(11.9)、葉面散布区(11.8)が最も高く、収量の高かった基肥増区が 10.9 と最も低くなった。(表 5)
- (4) 考 察

本年は、昨年、一昨年と同様基肥の多い方が収量が高いことを示したが、追肥で遅れ穂が増える、収量が高くなるといった傾向は見られなかった。

表 1 播種

前作物	播種月日	量	方法	畦幅
南瓜	4/28	340 粒/m ²	手押し式播種機	30 cm

表 2 施肥月日

施肥	月日
基 肥 BB082M	4/28
幼形期追肥 硫安	6/3
止葉期追肥 硫安	6/16
穂揃い期追肥 硫安	6/28
葉面散布 尿素	6/30 7/8 7/12

表3 防除

月日	対象病害虫	使用薬剤
6/9	うどんこ病	ユニックス顆粒水(700倍)
6/28	赤かび病	バラライカ水(500倍)
7/7	赤かび病	ベフラン液(1,000倍)
7/8	赤さび病	アミスター(2,000倍)ゲットアウト WDG(3,000倍)
7/12	赤かび病、アブラムシ	シルバキュア F(2,000倍)バイスロイド(2,000倍)

表4 生育調査・病害及び諸障害発生調査

区分	出芽 良否	生育期節 (月/日)			莖数(上段、本/m ²)と葉色(下段)		成熟期の		倒伏
		幼形期	出穂期	成熟期	幼形期	成熟期 下段:遅れ穂(%)	稈長	穂長	
基肥のみ	良	6/3	6/23	8/1	677 36.5	496 45 (9.1)	79.5	8.9	無
基肥増	良	6/3	6/23	8/1	790 36.8	448 55 (12.3)	84.5	9.0	無
幼形期追肥	良	6/3	6/23	8/1	637 34.0	412 39 (9.5)	79.7	8.6	無
止葉期追肥	良	6/3	6/23	8/1	697 35.9	444 52 (11.7)	78.4	8.5	無
穂揃い期追肥	良	6/3	6/23	8/1	730 34.2	445 24 (5.4)	82.0	8.9	無
葉面散布	良	6/3	6/23	8/1	703 37.3	412 45 (10.9)	84.6	9.0	無

表5 収量・品質調査

区分	収穫 月日	10 a 当り収量				品質	
		粗麦重 (kg)	精麦重 (kg)	比率 (%)	網上率 (%)	千粒重 (g)	蛋白質 含有率
基肥のみ	8/4	458	451	100	98.5	44.0	11.4
基肥増	8/4	509	498	110	97.9	43.2	10.9
幼形期追肥	8/4	450	441	98	98.1	43.7	11.1
止葉期追肥	8/4	459	453	100	98.8	44.9	11.9
穂揃い期追肥	8/4	429	421	93	98.2	43.7	11.0
葉面散布	8/4	467	462	102	99.0	45.1	11.8

※精麦重：2.2mm 網上、水分 12.5%換算値。

なたね品種系統比較試験

協力分担：北海道農業研究センター芽室研究拠点

1 試験目的：ダブルロー品種「ペノカのしずく」の優良品種としての可否を検討する。(初年目)

※ダブルロー：無エルシン酸、低グルコシノレート

※エルシン酸 …過剰摂取により心臓障害を誘引するおそれがあると言われている。
グルコシノレート…油かすに含まれ動物の甲状腺障害を誘導すると言われている。

2 試験場所：岩見沢市農業試験圃

3 試験方法

(1) 供試品種：ペノカのしずく (東北 105 号、4 年目)

対照:キザキノナタネ (無エルシン酸) 及びキラリボシ (ダブルロー)

(2) 面積及び区数：1 区面積 11.2 m² 3 反復

(3) 耕種概要：表 1 播種 表 2 窒素施肥 表 3 防除

4 結果の要約

(1) ペノカのしずくの収量は、キザキノナタネに比べ 98%、キラリボシ対比 121%となり、昨年比でも 101%となった。(表 6)

(2) 生育の経過では、キザキノナタネに比べ抽苔期で 2 日遅い 5/5、開花期も 2 日遅い 5/20 であったが、成熟期は高温で推移したため 7/22 で同日となった。(表 5)

(3) 草丈は、キザキノナタネより 15.4cm 高かった。(表 5)

(4) 病害虫・障害の発生程度では、冬損害が少～中発生と多く、滞水のため株が消失した個所があった。その他の病害虫、倒伏等の発生はほとんどなかった。(表 4・5)

(5) 考 察

ペノカのしずく (東北 105 号) は、これで 4 か年の収量がキザキノナタネ対比 107、101、110、98 と安定しており、病害虫・倒伏にも特別弱くなく、また成分等分析結果もダブルロー品種として十分な数値となっており、優良品種として十分期待が持てる。

表 1 播種

前作物	播 種			畦幅
	月日	量	方法	
もち麦	8/21	250g/10a	シートテープ	70 cm

表 2 窒素施肥 (kg/10a)

時期	窒素量	摘要
基 肥(8/21)	6.0	S014
起生期(4/13)	6.3	硫安
抽苔期(5/12)	4.6	尿素

表 3 防除

月日	対象病害虫	使用薬剤
5/14	菌核病 鱗翅目幼虫	トップジン M 水(1,000 倍) プリンス F(3,000 倍)

表4 出芽と越冬の状況

品種名	出芽 良否	株数(m ² 当)			冬損害
		越冬前	越冬後	越冬率(%)	
ペノカのしずく	やや不良	35	31	89	少
キザキノナタネ	やや不良	36	31	86	少
キラリボシ	並	42	38	90	中

表5 生育調査・病害及び諸障害発生調査

品種名	生育期節 (月/日)			成熟期における				病害・障害発生程度	
	抽苔期	開花期	成熟期	草丈 (cm)	穂長 (cm)	一次分枝数 (本/個体)	一穂 莢数	菌核病	倒伏
ペノカのしずく	5/5	5/20	7/22	154.3	55.1	9.9	52.3	無	無
キザキノナタネ	5/3	5/18	7/22	138.9	58.8	8.9	51.4	無	無
キラリボシ	5/6	5/20	7/22	129.4	57.5	10.8	46.0	無	無

表6 収量調査

品種名	収穫 月日	10 a 当り収量			千粒重 (g)	分析結果			
		子実重 (kg)	キザキノ ナタネ 対比(%)	キラリ ボシ 対比(%)		油分	エルシ ン酸 (0.0)	グルコシ ノレート (30未満)	酸価 (AV) (1.5未満)
ペノカのしずく	7/26	398	98	121	4.4	45.53	0.0	17.3	0.13
キザキノナタネ	7/26	406	100	124	5.0	44.52	0.2	195.7	0.11
キラリボシ	7/26	328	81	100	3.8	44.38	0.0	4.1	0.31

※分析結果は北農研センター芽室研究拠点
※()内はダブルロー品種の一般的な基準

もち麦播種量検討試験

1 試験目的：キラリモチの適正播種量を検討する。(初年目)

2 試験場所：岩見沢市農業試験圃

3 試験方法

(1) 供試品種：キラリモチ

(2) 面積及び区数：1区面積 9.6~108m²(30cm×8列及び9列×4m) 3反復(一部2反復)

(3) 播種量区分：①標準区 12kg/10a ②増区 15kg/10a ③減区 8kg/10a

(4) 耕種概要：表1播種 表2施肥 表3防除

4 結果の要約

(1) 10a 当り収量は、播種標準区(12kg/10a) の 391kg に対し増(15kg)区が 410kg(105%)、減(8kg)区が 363kg(93%)と播種量が多いほど多くなった。(表5)

(2) 生育の過程においても、播種量が多いほど草丈、茎数ともに多くなった。(表4)

(3) 千粒重、タンパク含有率、網上歩留りについてあまり違いは見られなかった。(表5)

(3) 倒伏、病害虫については、特に見られなかった。(表4)

(4) 考 察

キラリモチの播種量については、これまで 12kg/10a 程度が妥当と考えていたが、本試験で 15kg 程度までの増量は収量増に結びつくこと、播種量が少ないとかなり収量が目減りすることが分かった。ただ、本年は倒伏がなかった故の結果であり、茎が軟弱なキラリモチの場合出穂期以降の強風雨があった場合のリスクを考慮する必要がある。

表1 播種

前作物	播 種			畦幅
	月日	量	方法	
かぼちゃ	4/29	8、12、15kg/10a	手押し式播種機	30 cm

表2 施肥

(kg/10a)

肥料名	施肥量	施肥成分量		
		窒素	りん酸	加里
基肥 BB082M	80	8	14.4	9.6
追肥(尿素 6/16)	10	4.6	—	—

表 3 防除

月日	対象病虫害	使用薬剤
6/28	赤かび病	バラライカ水(500倍)

表 4 生育調査・病害及び諸障害発生調査

区分	初期生育(6/8)		生育期節			出穂期における		病害及び諸障害発生程度			
	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	幼形期	止葉期	出穂期	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	赤さ び病	うどん こ病	赤か び病	倒伏
標準	51.2	769	5/31	6/10	6/15	75.0	640	無	無	無	無
増	51.6	860	5/31	6/10	6/15	76.1	716	無	無	無	無
減	49.3	610	5/31	6/10	6/15	73.2	577	無	無	無	無

表 5 収量・品質調査

区分	収穫 月日	10 a 当り収量				品質	
		粗麦重 (kg)	精麦重 (kg)	比率 (%)	歩留 (%)	千粒重 (g)	蛋白質 含有率
標準	7/30	396	391	100	98.8	47.8	10.7
増	7/30	415	410	105	98.7	46.6	11.1
減	7/30	396	363	93	98.3	46.3	10.8

※精麦重：2.2mm 網上 13%水分補正值

※蛋白質含有率：小麦の検量線による測定のため参考値

亜麻栽培法試験

- 1 試験目的：輪作作物として有用な亜麻の栽培法（畦幅）について検討する。（5年目）
- 2 試験場所：岩見沢市農業試験圃
- 3 試験方法
 - (1) 栽培法区別：①畦幅 60cm(慣行) ②畦幅 30cm
 - (2) 面積及び区数：1区面積 9.6m² 2反復
 - (3) 耕種概要：表1 播種 表2 施肥
- 4 結果の要約
 - (1) 10a 当収量は、畦幅 30cm 区が 110kg で慣行 60cm 区に対し 153%と大きく上回った。(表3)
 - (2) 茎数は、60cm 区 313 本/m²に対し 30cm 区 369 本と多くなり、1 茎当り球数(莢数)も 2,633 個と 14%多かった。(表3)
 - (3) 千粒重は、60cm 区 7.0g に対し 30cm 区 6.5g とやや小さくなった。(表3)
 - (4) 生育の過程では、高温で推移したため開花始期が例年より 10 日ほど早く、例年 1 か月ほどある開花期間も 20 日間程度で終期となった。しかし、その後 7 月下旬よりまたパラパラと開花が見られ成熟期もだらついたものとなった。(表3)

(3) 考 察
 本年においても、狭畦栽培が収量を増加させることが実証された。

表1 播種

前作物	播 種			畦幅
	月日	量	方法	
かぼちゃ	4/29	3kg/10a	手押し式 播種機	60cm 及び 30cm

表2 施肥

基肥のみ 窒素 6.0kg/10a (S121 60kg/10a)

表3 生育及び収量調査

畦幅区分	出芽 良否	生育期節(月/日)			倒伏	成熟期の			10a当 収量 kg	比(%)	千粒重 (g)
		出芽期	開花始期	開花終期		草丈(cm)	m ² 当莖数	m ² 当球数			
60cm区	良	5/14	6/21	7/8	無	60.9	313	2,305	72	100	7.0
30cm区	並	5/17	6/22	7/8	無	60.2	369	2,633	110	153	6.5

【畦幅比較試験5年間のまとめ】

年	播種 日	開花 始	草丈(cm)		m ² 当莖数		m ² 当莢数		m ² 当収量(kg)		千粒重(g)	
			慣行	狭畦	慣行	狭畦	慣行	狭畦	慣行	狭畦	慣行	狭畦
2017	4/27	6/27	77.2	79.8	511	600	4,206	5,333	95(100)	101(106)	6.0	5.9
2018	4/20	6/25	—	—	—	—	—	—	11(100)	20(182)	—	—
2019	5/6	6/24	62.3	62.4	378	989	3,200	4,852	47(100)	135(287)	—	—
2020	5/8	6/24	78.3	90.0	215	234	2,787	5,027	144(100)	200(139)	7.2	7.3
2021	4/29	6/21	60.9	60.2	313	369	2,305	2,633	72(100)	110(153)	7.0	6.5

※慣行は畦幅60cm、狭畦は2017～18年20cm、2019～21年は30cm。

※考 察

- (1) 豊凶はあるものの、どの年の収量も狭畦が慣行を上回った。
- (2) 栽培期間中最も順調な気象条件であった2020年のm²当収量は200kgであり、これまで100kgと言われた収量であるが、条件を整えればもっと高めることができることが分かった。
- (3) 現状の栽培方法では極端な気象条件に弱い。
 2017年・・・7月の異常高温、強雨・強風による倒伏
 2018年・・・8月の長雨・強風による落莢
 2019年・・・播種後クラストによる出芽不良
 2021年・・・7月の異常高温による開花不良
- (4) 今後の亜麻栽培の課題としては、国産亜麻仁油の需要の創出が第一ではあるが、栽培そのものにおいては狭畦栽培時の雑草対策、極端な気象条件への対応などがあげられる。

大豆優良品種決定現地調査・品種比較現地試験

協力分担：空知農業改良普及センター本所
道総研中央農業試験場・十勝農業試験場

- 1 試験目的 大豆優良品種決定のため育成系統の現地適応性を確認する。
- 2 試験場所 岩見沢市農業試験圃
- 3 試験方法

(1) 試験規模・耕種概要

供試品種及び系統数	1区面積	区制 (反復)	供用面積
2品種 1系統	14.4 m ²	2	86.4 m ²

供試品種 トヨムスメ (標準品種)
ユキホマレ (地域要望品種)
供試系統 十勝 275 号

前作物	播種日	畦幅	培土の有無	株間	1株 本数
スイートコーン	5月20日	60 cm	無	20 cm	2

要素量 (kg/10a)				使用肥料名	施肥量(kg/10a)	備考
N	P2O5	K2O	MgO			
1.5	12.5	6.5	1.3	S353	50	

(2) 病虫害防除

月	日	使用薬剤 (殺虫・殺菌剤)	濃度または施用量	対象病虫害
5	19	クルーザーMAXX	8 mL/種子 1 kg	苗立枯病、茎疫病、クネハエ、アブラムシ
7	27	ゲットアウトWDG	3000倍	マメシクイガ
8	3	フェニックス顆粒水和剤	2000倍	マメシクイガ
		ダニトロンフロアブル	1000倍	ハダニ
8	17	バイスロイド乳剤	2000倍	マメシクイガ

4 一般経過概要 (地域の概要)

(1) 気象および生育の概況

ア は種作業は平年並に開始したが、他作物との作業の影響や断続的な降雨により、は種終わりは5日遅くなった。

イ 出芽は平年並であった。

ウ 気温は、は種直後の5月6半旬は平年よりも低めで経過したが、6月以降は平年よりも高めに経過した。

エ 7月3半旬～8月1半旬は極端な高温で、かつ23日間(7月9日～8月1日)降雨がなかった。その影響で生育は停滞した。

- オ 高温・干ばつの期間が開花時期と重なったため、着莢数は平年比85%となった。
- カ 出芽期以降の生育は高温多照で経過し、開花始は平年より2日、開花期も同様に2日早くなった。生育期間全般で気温が高い傾向だった。
- キ 9月以降の気温は平年並となったが、多照、少雨で推移し、葉の黄変、葉落ちが平年より早く、成熟期は平年より4日早まった。
- ク 粒大は小さい傾向となった。
- ケ 収穫作業は降雨等の影響もなく、平年よりも早く終了した。
- コ 子実は、かび等の被害粒の発生は殆どなかった。8月下旬に殺菌剤散布を行っているほ場も散見された。
- サ カメムシ類による大豆子実被害が一部で見られた。

(2) 障害の概況

令和2年度に発生が多かった、粒のかびや着色は殆どなかった。

5 考察

(1) 本年の初期生育、耐倒伏性、熟期、収量性、品質と単年評価について

ア 十育275号

- (ア) 主径長は、トヨムスメより長かったものの倒伏は無かった。
- (イ) 収量はトヨムスメ並であった。
- (ウ) 百粒重はトヨムスメ並みであった。
- (エ) 裂開粒率はトヨムスメより低かった。
- (オ) 莢の熟期はトヨムスメと同程度であったが、収穫時の茎葉はトヨムスメより乾いており、作業が良いと感じた。

イ 地域要望のユキホマレとの比較

- (ア) 主径長はユキホマレより長かったものの倒伏は無かった。
- (イ) 莢数、百粒重、収量は優った。

(2) 総合的な有望度について

- ア 十育275号は「最下着莢位置がトヨムスメより高い」「裂皮がトヨムスメより少ない」「収量はトヨムスメ並」という特性が確認できた。
- イ 収穫時の茎の乾きがトヨムスメより良く、手収穫での評価になるが作業性は優ったと感じた。
- ウ 試験1年目のため、有望度は「□再検討」とした。

6 試験結果

(1) 生育調査

種別	系統名 及び 品種名	反復	出芽の 良否	開花期	成熟期	収穫期	倒伏 程度	成熟期における		
				月/日				主茎長 (cm)	*莢数 (莢/株)	最下着莢 位置(cm)
中生	十育275号	I	中	7/20	10/1	10/7	0	58.2	60.5	12.6
		II	中	7/20	10/1	10/7	0	60.0	55.0	13.0
		平均		7/20	10/1	10/7	0.0	59.1	57.8	12.8
	トヨムスメ	I	中	7/20	10/1	10/7	0	58.0	58.0	11.5
		II	中	7/20	10/1	10/7	0	56.8	56.0	11.8
		平均		7/20	10/1	10/7	0.0	57.4	57.0	11.7
やや 早	ユキホマレ	I	中	7/15	9/14	9/16	0	52.1	48.0	10.6
		II	中	7/14	9/14	9/16	0	54.0	50.0	9.8
		平均		7/15	9/14	9/16	0.0	53.1	49.0	10.2

(2) 収量調査

系統名 及び 品種名	反復	収穫 面積 m ²	収穫 株数	欠株 数	kg/区	kg/10a		標準 比 %	百粒 重* g	屑粒 率* %	うち裂 開粒率 *%	裂皮 程度 *	品質 *	内部成分* (100g当り)			備考
					子実重	子実重 水分補正 なし	子実重 水分15% 換算							蛋白	脂肪	全糖	
十育275号	I	4.8	40	0	1.63	350	366		34.0	0.0	0.0	0.5	3下	42.4	20.1	22.0	しわ
	II	4.8	40	0	1.57	327	345		31.5	0.4	0.0	0.0	3下	43.6	19.9	21.1	裂皮
	平均	-	-	-	-	339	355	101	32.8	0.2	0.0	0.3		43.0	20.0	21.6	
トヨムスメ	I	4.8	40	0	1.66	346	364		33.5	1.0	0.3	3.0	2中	43.6	18.6	22.2	裂皮
	II	4.8	40	0	1.54	321	337		31.6	1.4	0.0	3.0	2中	44.3	19.0	21.8	
	平均	-	-	-	-	333	351	100	32.6	1.2	0.2	3.0		44.0	18.8	22.0	
ユキホマレ	I	4.8	40	0	1.40	292	304		28.9	0.7	0.0	0.5	3中	42.3	20.1	22.2	しわ
	II	4.8	40	0	1.25	260	273		29.5	0.3	0.0	0.5	3中	41.6	20.5	22.3	未熟
	平均	-	-	-	-	276	289	100	29.2	0.5	0.0	0.5		42.0	20.3	22.3	

(3) 供試系統の評価

種別	系統名 または 品種名	耐倒伏性	熟期	収量性	品質	単年評価	有望度	備考
中生	十育275号	□	□	□	○	□	□	
	トヨムスメ	□	□	□	□	□		標準品種

評価基準 (単年評価) ◎: 優る ○: やや優る □: 並 △: やや劣る ×: 劣る
 (有望度) ◎: 有望 ○: やや有望 □: 並または再検討 △: やや劣る
 ×: 打ち切り

露地かぼちゃ品種比較試験

協力分担：JAいわみざわ

- 1 試験目的 露地作型におけるかぼちゃの品種特性を把握し、地域適応性を検討する。
- 2 試験場所 岩見沢市農業試験圃
- 3 試験方法

- (1) 試験規模・処理： 供試面積 208 m² 1区5株 × 2反復
 A 区分:株間 50cm 畦幅 400cm (500株/10a)
 B・C 区分:株間 70cm 畦幅 400cm (360株/10a)

(2) 作型 : 露地 (マルチ)

(3) 供試品種

A 区分(仕立方法：1本仕立)	みやこ (対照品種)	種子元：園研
	A J 1 3 2	種子元：朝日アグリア
B 区分(仕立方法：2本仕立)	味平 (対照品種)	種子元：みかど協和
	プリメラエース	種子元：朝日アグリア
	NS030	種子元：ナント
C 区分(仕立方法：2本仕立)	銀世界 (対照品種)	種子元：みかど協和
	雪化粧	種子元：サカタ
	ST137	種子元：ナント

(4) 耕種概要

作型	播種 月日	定植 月日	栽植密度(cm)		仕立 て本 数	施肥量 (kg/10a)			収 穫 月 日	成熟日数 (着果始～ 収穫始)
			畦幅	株間		N	P	k		
露地早熟 マルチ (グリーン)	4/26	6/1	400	1本仕立 50	1本	8.0	17.0	9.0	8/16～ 9/3	45～55日
				2本仕立 70						
摘要	鉢上げ 5/12 鉢土：ポット エース		1本仕立 500株/10a 2本仕立 357株/10a (摘芯：5/26)		基肥(全層)： 苦土有機入りかぼちゃ専用配合 S879E 100kg/10a					

※土壌分析値 PH:6.1 EC:0.02 CEC:24.2 リン酸:36mg/100g

石灰:420mg/100g 苦土:49mg/100g 加里:34mg/100g (前作：秋小麦)

(5) 病害虫防除

月	日	使用薬剤（殺虫・殺菌剤）	希釈倍率	対象病害虫
6	8	イデクリーン水和剤	500倍	果実斑点細菌病、うどんこ病
6	29	アドマイヤー顆粒水和剤	10000倍	アブラムシ
6	30	イデクリーン水和剤	500倍	果実斑点細菌病、うどんこ病
7	16	ダコニール1000	1000倍	うどんこ病
		アディオオン乳剤	2000倍	アブラムシ
8	3	ポリベリン水和剤	1000倍	うどんこ病

4 生育経過

育苗にあたっては「みやこ」「プリメラエース」の出芽が早く、「AJ132」「NS030」は遅い傾向が認められたが、各品種とも大きな問題はなかった。

定植直後の強風で葉が損傷し生育が一時停滞したが、その後好天が続き、生育は回復した。

定植1ヶ月後の7月上旬に着果が始まり、A区分（みやこ、AJ132）は8月中旬、その他の品種は8月下旬に収穫期となった。

供試した全品種でうどんこ病が微～中発生、一部品種で果実斑点細菌病が微～小発生、つる枯病が微発生した。

5 試験結果

(1) A区分 対照品種：「みやこ」

「AJ132」は2番果もある程度収穫できたので、収穫果数、収量は「みやこ」より多かった。

5～6玉規格が57%（「みやこ」は90%）で玉揃は劣っていたが、果肉色が濃く、糖度も高かった。

(2) B区分 対照品種：「味平」

「NS030」は低節位（5節付近）から雌花が着生したため摘徐した。その影響もあって雌花開花始め、着果始めが、「味平」「プリメラエース」よりやや遅くなった。

「プリメラエース」「NS030」は収量、平均1果重は「味平」とほぼ同等だが、5～8玉規格の割合が高く、玉揃いは良好だった。

しかし、「プリメラエース」は果肉色がやや淡く、糖度が低かった。「NS030」は収穫後の風乾・貯蔵中に腐敗果が多発した。

(3) C区分 対照品種：「銀世界」

「雪化粧」は草勢がやや強く、着果しない主枝が全体の20%あり、総着果数が少なくなって大玉傾向となった。糖度はやや低かった。

「ST137」は2番果の着果が良く、総着果数が確保され、6玉規格以上が多かったので、収量は最も高くなった。糖度も高かった。

6 考察

A区分（対照品種：みやこ）では「AJ132」が玉揃いはややバラついているが、対照品種より収量が高く、果肉色、糖度の内部品質も優れていた。

B区分（対照品種：味平）では、「プリメラエース」は収量性は対照品種と同等だが、内部品質において果肉色、糖度がやや劣っていた。「NS030」は収量性、内部品質は対照品種とほぼ同等だ

が、収穫後に腐敗果が多く発生し、検討課題が残った。

C区分(対照品種：銀世界)では、「雪化粧」は着果数が少なく大玉傾向で、糖度がやや低かった。

「ST137」は収量性と糖度が高かった。

今回供試した中では、「AJ132」と「ST137」が対照品種に劣らぬ成績となり、地域適応性の高い品種と考えられた。

7 試験成績

(1) 生育調査

表1 A区分

供試品種	雌花開花始		着果始	第1果	着果数(果/株)		収穫始	成熟日数
	期	節位		着果節位	第1果	総着果数		(着果始~収穫始)
みやこ	6月26日	10.8	7月2日	19.3	1.0	1.0	8月16日	45日
AJ132	6月27日	11.2	7月2日	18.0	1.0	1.4	8月16日	45日

表2 B区分

供試品種	雌花開花始		着果始	第1果	着果数(果/株)		収穫始	成熟日数
	期	節位		着果節位	第1果	総着果数		(着果始~収穫始)
味平	6月30日	9.5	7月2日	12.5	1.9	3.1	8月23日	52日
プリメアース	7月3日	9.1	7月3日	9.5	1.7	3.2	8月27日	55日
NS030	7月5日	10.8	7月6日	12.1	1.9	3.2	8月27日	52日

表3 C区分

供試品種	雌花開花始		着果始	第1果	着果数(果/株)		収穫始	成熟日数
	期	節位		着果節位	第1果	総着果数		(着果始~収穫始)
銀世界	7月2日	10.1	7月4日	12.6	2.0	2.8	8月27日	54日
雪化粧	7月2日	9.3	7月5日	13.8	1.6	2.4	8月27日	53日
ST137	7月4日	9.7	7月5日	10.9	1.9	3.1	8月27日	53日

(2) 収量調査

表4 A区分

供試品種	3~4玉(2.5kg~)		5~6玉(1.65kg~)		7~8玉(1.25kg~)		9~10玉(1.0kg~)		規格外(~1.0kg)		規格内収量			総収量		
	球数 /10a	重量 kg/10a	球数 /10a	重量 kg/10a	球数 /10a	重量 kg/10a	球数 /10a	重量 kg/10a	球数 /10a	重量 kg/10a	球数 /10a	重量 kg/10a	1果重 g	球数 /10a	重量 kg/10a	1果重 g
みやこ	0	0	450	947	50	77	0	0	0	0	500	1,023	2,047	500	1,024	2,047
AJ132	100	258	400	857	200	305	0	0	0	0	700	1,419	2,028	700	1,419	2,028

表5 B区分

供試品種	3~4玉(2.5kg~)		5~6玉(1.65kg~)		7~8玉(1.25kg~)		9~10玉(1.0kg~)		規格外(~1.0kg)		規格内収量			総収量		
	球数 /10a	重量 kg/10a	球数 /10a	重量 kg/10a	球数 /10a	重量 kg/10a	球数 /10a	重量 kg/10a	球数 /10a	重量 kg/10a	球数 /10a	重量 kg/10a	1果重 g	球数 /10a	重量 kg/10a	1果重 g
味平	143	380	571	1,156	250	358	107	124	36	33	1,071	2,017	1,883	1,107	2,050	1,852
プリメアース	0	0	821	1,652	286	437	0	0	0	0	1,107	2,089	1,887	1,107	2,089	1,887
NS030	0	0	821	1,654	250	359	71	77	0	0	1,143	2,090	1,829	1,143	2,090	1,829

表6 C区分

供試品種	3~4玉(2.5kg~)		5~6玉(1.65kg~)		7~8玉(1.25kg~)		9~10玉(1.0kg~)		規格外(~1.0kg)		規格内収量			総収量		
	球数果 /10a	重量 kg/10a	球数果 /10a	重量 kg/10a	球数果 /10a	重量 kg/10a	球数果 /10a	重量 kg/10a	球数果 /10a	重量 kg/10a	球数 果/10a	重量 kg/10a	1果重 g	球数 果/10a	重量 kg/10a	1果重 g
銀世界	0	0	786	1,483	214	305	0	0	0	0	1,000	1,788	1,788	1,000	1,788	1,788
雪化粧	179	487	607	1,393	36	52	36	43	0	0	857	1,975	2,304	857	1,975	2,304
ST137	107	278	929	1,877	71	112	0	0	0	0	1,107	2,267	2,047	1,107	2,267	2,047

(3) 特性調査

表7 A区分

品種	草勢	葉			病害		
		色	大・小	欠刻	細菌	うどんこ	つる枯
みやこ	中	緑	中	中	微発生	微発生	
AJ132	中	やや淡緑	中	中	小発生	微発生	
※細菌:果実斑点細菌病(果実表面の小突起症状)							
※つる枯:つる枯れ病(果実表面が軟化陥没して腐敗)							

品種	果皮色	果高	果径	果形 指数	果形	花痕径	果肉色	肉厚 mm		糖度	果肉色
		cm	cm			mm		赤道部	花痕部	Brix	(加熱後)
みやこ	緑	11.6	18.8	0.62	扁平	25.1	黄	34.1	21.9	14.9	黄
AJ132	緑	11.7	19.2	0.61	扁平	20.4	やや濃黄	32.6	20.6	16.8	濃黄
※果形指数:果高/果径(1以上:紡錘形、1:球形、1以下:扁平)											

表8 B区分

品種	草勢	葉			病害		
		色	大・小	欠刻	細菌	うどんこ	つる枯
味平	中	緑	中	中		小発生	
プリメアース	中	やや淡緑	やや大	中		小発生	
NS030	やや強	やや濃緑	やや大	中		小発生	微発生

品種	果皮色	果高	果径	果形 指数	果形	花痕径	果肉色	肉厚 mm		糖度	果肉色
		cm	cm			mm		赤道部	花痕部	Brix	(加熱後)
味平	緑	11.2	19.5	0.57	扁平	27.2	黄	32.8	22.3	14.8	黄
プリメアース	やや濃緑	11.1	19.4	0.57	扁平	18.8	やや淡黄	30.8	17.6	10.3	黄
NS030	やや濃緑	11.3	18.5	0.61	扁平	18.3	黄	24.1	20.8	14.7	濃黄

表9 C区分

品種	草勢	葉			病害		
		色	大・小	欠刻	細菌	うどんこ	つる枯
銀世界	中	緑	中	中	微発生	小発生	
雪化粧	やや強	やや淡緑	中	中	微発生	中発生	
ST137	中	緑	中	中		中発生	

品種	果皮色	果高	果径	果形 指数	果形	花痕径	果肉色	肉厚 mm		糖度	果肉色
		cm	cm			mm		赤道部	花痕部	Brix	(加熱後)
銀世界	やや灰緑	10.6	17.6	0.60	扁平	24.9	黄	31.2	19.2	14.0	黄
雪化粧	灰白	11.7	20.0	0.59	扁平	25.1	黄	31.5	16.0	12.9	黄
ST137	灰白	11.0	19.1	0.58	扁平	23.6	黄	31.5	19.4	15.4	濃黄



参 考 資 料

食味調査結果 参加者 5 人（農業試験圃職員）

品種	果肉色 (加熱後)	食 味			総合	9/9実施
		硬さ	粉質程度	甘味		
みやこ	黄	やや軟	やや粘	並	並	
AJ132	濃黄	中	やや粉	やや甘い	やや良	
品種	果肉色 (加熱後)	食 味			総合	9/27実施
		硬さ	粉質程度	甘味		
味平	黄	中	中	並	良	
プリメアース	黄	中	粘	やや劣る	並	
NS030	濃黄	やや硬	粘	並	やや劣る	
品種	果肉色 (加熱後)	食 味			総合	9/27実施
		硬さ	粉質程度	甘味		
銀世界	黄	中	中	並	良	
雪化粧	黄	中	粘	やや劣る	やや劣る	
ST137	濃黄	軟	中	並	並	

スイートコーン品種比較試験

協力分担：JA いわみざわ

1 試験目的 スイートコーンの品種比較を行い、岩見沢市における地域適応性を検討する。

2 試験場所 岩見沢市農業試験圃

3 試験方法

(1) 試験規模・処理 供試面積 黄色種：270㎡ 1区面積 90㎡ 反復なし
 白色種：108㎡ 1区面積 54㎡ 反復なし

(2) 作型 露地直はんマルチ栽培8月どり（グリーンマルチ9230）

(3) 供試品種 3品種（黄色系） 2品種（白色系）

黄色系 恵味ゴールド（清水種苗）88日タイプ 対照品種
 恵味スター（清水種苗）87日タイプ 対照品種
 恵味改35（清水種苗）

白色系 プラチナコーンχ（清水種苗）90日タイプ 対照品種
 白い恵味（清水種苗）88日タイプ

(4) 耕種概要

は種	収穫	栽植密度(cm)			施肥量(kg/10a)						
		畝幅	株間	条間	肥料銘柄・施肥量			N	P	K	
5月14日	8月9日	90	30	45	基肥	(5/11)	S380	76.9kg	10.0	13.9	7.7
					追肥	(6/15)	S444	28.6kg	4.0	1.1	4.0
		10a当たり3,700株				合計			14.0	15.0	11.7

4 結果の概要

(1) 黄色系

出芽は「恵味スター」が早く、「恵味ゴールド」がそれに次いだ。「恵味改35」はやや遅く、その後の生育も3~4日遅かった。

収穫期の桿長・着穂高は「恵味スター」が高く、「恵味改35」は低かった。

総収量は「恵味改35」がやや低かった。

高価格が期待できるL規格以上の割合は「恵味スター」が96.5%と高く、「恵味ゴールド」が89.5%でそれに次いだ。「恵味改35」は75.0%で低い結果となった。

糖度は「恵味ゴールド」が高く、次いで「恵味改35」「恵味スター」の順となった。

(2) 白色系

「白い恵味」は不出芽が33%（60粒のうち20粒）あり、1か所3粒まきしたが欠株が5%（20か所に1か所）見られた。発芽も遅く、雄穂、絹糸の抽出もやや遅れた。

しかし総収量、L規格以上割合、糖度は高かった。

(3) 耐倒伏性について

収穫時に全ての品種で倒伏は見られなかったが、収穫日の夕方から翌日にかけての降雨、強風で全品種が倒伏した。「恵味改35」「白い恵味」は対照品種より稈長が低かったが、耐倒伏性が優れている

とは思われなかった。

5 考察

黄色系で今回供試した「恵味改35」は生育、収量、品質において、対照品種より優れた点は認められなかった。

白色系で供試した「白い恵味」は初期生育、特に発芽に問題はあるが、収量、品質が対照品種を上回っていた。欠株発生を回避する方策（1か所3粒以上は種、補植苗準備等）を講じることで、地域適応品種としての有望度は高まると考える。

6. 調査結果

品種	恵味ゴールド	恵味スター	恵味改35	プラチナコンX	白い恵味	
播種期	5月14日					
出芽期	5月22日	5月22日	5月23日	5月22日	5月24日	
出芽良否	並	良	やや否(遅い)	並	否(欠株あり)	
出芽数	60粒の内	55	55	55	56	40
初期生育	草丈 cm	91.6	99.0	79.1	98.9	88.0
	葉数	10.9	10.6	9.7	11.1	11.0
雄穂抽出期	7月11日	7月10日	7月14日	7月14日	7月16日	
絹糸抽出期	7月18日	7月17日	7月19日	7月18日	7月20日	
雄穂開花揃	7月16日	7月15日	7月19日	7月19日	7月19日	
収穫期	稈長 cm	176.0	179.6	161.3	172.1	167.0
	着穂高cm	60.2	67.4	58.7	53.4	61.8
	分けつ数	4.0	3.9	3.4	2.4	3.5
雌穂重	g/本	444.2	443.1	425.0	424.6	448.4
雌穂長	cm	22.1	22.8	20.4	20.8	20.9
先端不稔	cm	0.1	0.7	0.0	0.4	0.4
糖度	Brix	18.6	16.3	17.3	17.0	18.5
総収量	kg/10a	1,644.9	1,640.8	1,573.8	1,572.5	1,660.3
2L	本数 %	45.6	44.8	35.7	26.8	54.5
	kg/10a	812.1	786.6	625.5	465.5	976.2
L	本数 %	43.9	51.7	39.3	51.8	34.5
	kg/10a	693.8	808.3	616.3	818.6	540.0
M	本数 %	10.5	3.4	25.0	21.4	10.9
	kg/10a	139.0	46.0	331.9	288.3	144.1



写真1 左から「恵味ゴールド」「恵味スター」「恵味改35」

(7月2日)



写真2 左から「プラチナコーンx」「白い恵味」

(7月2日)



写真3 「プラチナコーンx」 (8月9日)



写真4 「白い恵味」 (8月9日)



写真5 「恵味ゴールド」 (8月9日)



写真6 「恵味スター」 (8月9日)



写真7 「恵味改35」 (8月9日)

たまねぎ硫黄被覆肥料効果確認試験（2年目）

協力分担：サンアグロ株式会社

1 試験目的 長期の連作により肥料成分が蓄積し、土壌の化学性、物理性が悪化する中で、微生物による分解形態を有する被覆肥料の効果を確認する。

2 試験場所 岩見沢市農業試験圃

3 試験方法

- (1) 試験規模・反復 供試面積 450 m² 1区 112.5 m² × 2反復
- (2) 試験区分・供試資材 1区（慣行区） : NS262+S121
2区（被覆肥料区） : 硫黄被覆肥料Lタイプ（110日）
- (3) 供試品種 北もみじ2000
- (4) 耕種概要

は種	定植	収穫	栽植密度		施肥		要素量(kg/10a)			
					肥料銘柄・施用量(kg/10a)		N	P	K	
2/20	4/29	8/31	畝幅 30cm	株間 12cm	慣行区	NS262	25	3.0	4.0	3.0
						S121	120	12.0	24.0	12.0
					計		15.0	28.0	15.0	
					試験区	硫黄被覆Mタイプ	125	15.0	15.0	15.0

※土壌分析値 PH6.2 CEC19.1me/100g リン酸116mg/100g 石灰501mg/100g
苦土44mg/100g 加里44mg/100g (前作 たまねぎ)

(5) 病虫害防除

月	日	使用薬剤(殺虫・殺菌剤)	濃度	対象病虫害
6	7	グリーンペンコゼブ水和剤	500倍	白斑葉枯病、べと病
		コルト顆粒水和剤	2000倍	ネギアサミウマ
6	22	ファンタジスタ顆粒水和剤	3000倍	白斑葉枯病、小菌核病
		ディアナSC	3000倍	ネギアサミウマ
7	1	ダコニール1000	1000倍	べと病
7	13	スターナ水和剤	1000倍	軟腐病
		ベネビアOD	2000倍	アサミウマ、ハモグリハエ
7	21	ミリオネアフロアブル	4000倍	白斑葉枯病、小菌核病
7	30	ファンタジスタ顆粒水和剤	3000倍	白斑葉枯病、小菌核病
		ディアナSC	3000倍	ネギアサミウマ
8	17	スターナ水和剤	1000倍	軟腐病
		フロンサイドSC	1000倍	白斑葉枯病、灰色腐敗病

4 生育経過

定植後の5月2半旬から8月2半旬まで気温は平年より高く推移し、生育は進んだ。しかし6月5半旬から8月1半旬まで小雨となり、高温も影響して球肥大が進まず、L規格中心の小玉傾向となった。

平均地温は6月3半旬より8月2半旬まで20℃以上がほぼ継続した。7月4半旬から8月2半旬は25℃以上となった。

5 結果の概要

生育の初期～中期は、慣行区の草丈、葉鞘径が試験区を上回っていた。試験区は葉色が淡く、外見でも慣行区との違いが確認できた。

収穫調査では試験区の平均1球重がやや軽く、規格外も多くなり、慣行区に比べて総収量が6%、規格内収量が14%低い結果となった。

6 考察

本年は硫黄被覆肥料を施用した試験区の生育、収量が慣行区より劣り、昨年（2021年）の試験とは逆の傾向を示した。

昨年は硫黄被覆肥料に、初期生育確保を目的とした速効性肥料の「NS262」を組み合わせた試験区を設定し、慣行区とほぼ同等～やや優れた結果となった。

昨年の試験も考慮すると、「硫黄被覆肥料Lタイプ（110日）」は速効性肥料と組み合わせることで生育、収量が向上し安定すると思われる。

7 調査結果

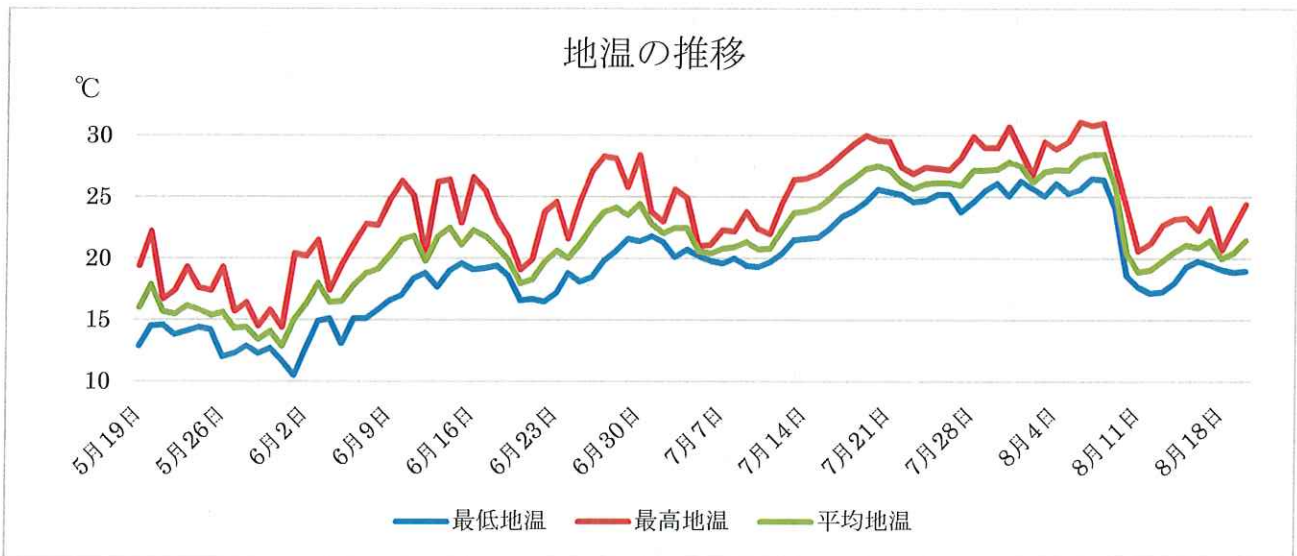


図1 ほ場の地温推移

表1 生育調査

	定植時苗質(4月29日)				6月1日			6月29日			肥大期	倒伏期	収穫期の球質		
	草丈	生葉数	葉鞘径	根数	草丈	生葉数	葉鞘径	草丈	生葉数	葉鞘径			球高	球径	球形指数
	cm	枚	mm	本	cm	枚	mm	cm	枚	mm			cm	cm	指数
慣行区	16.0	3.9	4.9	11.3	27.3	4.7	7.7	78.4	7.9	20.2	7/2	7/22	6.6	7.7	86
試験区					24.3	4.5	6.8	64.2	8.0	19.2	7/1	7/25	6.7	7.5	89

表2 収穫調査 (8月31日)

		規格内訳					規格内 収量	規格外 収量	総収量	規格内率 %	指数		平均1球重(g)	
		2L	L大	L	M	S					規格内 収量	総収量	規格内	全体
慣行区	kg/a	0	209	298	48	2	557	10	568	98.2	100	100	205	204
	%	0.0	36.8	52.6	8.4	0.4	98.2	1.8	100.0					
試験区	kg/a	0	121	298	58	5	481	53	535	90.0	86	94	197	192
	%	0.0	22.6	55.7	10.9	0.9	90.0	10.0	100.0					



写真1 6月17日の生育状況 左：慣行区 (NS262+S121) 右：試験区 (硫黄被覆肥料)



写真2 慣行区の収穫調査 (8月31日) 左：反復1 右：反復2



写真3 試験区の収穫調査 (8月31日) 左:反復1 右:反復2

にんじん品種比較試験（2年目）

協力分担：JA いわみざわ

1 試験目的 5月は種のにんじん新品種を比較検討する。

2 試験場所 岩見沢市農業試験圃

3 試験方法

(1) 試験規模 1区 3.24 m² (0.9m×3.6m) 反復なし

(2) 供試品種 向陽2号（タキイ）、晩抽天翔（タキイ）、紅みのり（住化）、YCC129（住化）

4 耕種概要

(1) 耕種概要

は種月日	栽植密度(cm)		施肥量(kg/10a)		成分量(kg/10a)		
	畦幅	株間	肥料銘柄	施用量	N	P	K
5月11日	30	10	S121	80	8	16	8
			NS262	20	2.4	3.2	2.4
	3,333株/a当たり		計		10.4	19.2	10.4

(2) 病虫害防除

月	日	使用薬剤(殺虫・殺菌剤)	濃度または施用量	対象病虫害
6	18	カンタスドライフロアブル	1000倍	黒葉枯病
		ゲットアウトWDG	3000倍	アブラムシ、ヨウガ
7	26	ファンタジスタ顆粒水和剤	3000倍	黒葉枯病
		モスピラン顆粒水溶剤	4000倍	アブラムシ、ヨウガ

5 生育経過

は種後概ね2週間で出芽期となった。

5月6半旬が低温だったが抽台は発生しなかった。

6月から8月上旬まで高温、乾燥傾向で経過し、は種後106日の8月24日に収穫した。

収穫時の草丈は前年より短かった。特に問題となる病虫害の発生はなかった。

6 結果の概要

生育の中間（6月29日）および収穫期（8月24日）の草丈は「紅みのり」が最も高く、生葉数は「晩抽天翔」が多かった。「YCC129」は収穫期の草丈が最も低かった。

根重は「紅みのり」が最も重く、根長、最大根径も大きかった。「YCC129」は最も軽かった。草姿、病害発生程度、根型、外皮色、肉色、芯色は4品種ともほぼ同様だった。

総収量は「紅みのり」が最も高かったが、規格内収量は「晩抽天翔」が最も高かった。

「YCC129」は総収量、規格内収量ともに最も低かった。

規格内率は重量割合では「向陽2号」、本数割合では「晩抽天翔」が高かった。

規格外の内訳をみると「向陽2号」は変形、「晩抽天翔」は大根（330g以上）と裂根、「紅みのり」は粗皮（表皮が荒れている）、「YCC129」は曲根が多かった。

7 考察

収量性を重量で評価すると、「向陽2号」は総収量はやや低い規格内率が最も高く、規格内収量は確保された。「晩抽天翔」は総収量、規格内率が高く、規格内収量が最も高かった。「紅みのり」は総収量は最も高かったが規格内率が低く、規格内収量は「向陽2号」と同等だった。「YCC129」は総収量、規格内収量ともに、他の3品種よりかなり低かった。

規格内収量を本数で評価しても、同様の傾向だった。

以上のことから5月まき作型では、「晩抽天翔」の規格内収量が高く、最も適していると考えられる。「向陽2号」「紅みのり」がそれに次いでいる。

「YCC129」は収量が他の3品種よりかなり低く、この作型の適応性が低いと考えられる。

8 試験結果

(1) 生育調査

品種	6月29日		8月24日				
	草丈	生葉数	草丈	生葉数	草姿	抽台	黒葉枯病
	cm	枚	cm	枚			
向陽2号	21.2	6.3	41.2	9.5	やや直立	なし	微発生
晩抽天翔	21.2	7.5	43.4	12.2	やや直立	なし	微発生
紅みのり	25.7	6.8	45.8	10.5	やや直立	なし	微発生
YCC129	22.8	6.9	37.8	10.6	やや直立	なし	微発生

品種	8月24日								
	根重	根長	抽出根長	最大根径	芯径	根型	外皮色	肉色	芯色
	g	cm	cm	mm	mm				
向陽2号	201	19.0	0.9	49.1	27.5	くさび	橙	橙	淡橙
晩抽天翔	195	17.8	0.5	50.0	29.3	くさび	橙	橙	淡橙
紅みのり	215	19.6	0.7	50.5	26.6	くさび	橙	橙	淡橙
YCC129	175	18.7	1.0	45.4	25.6	くさび	橙	橙	淡橙

(2) 収穫調査

調査日 8月24日

品種	項目	単位	総収量	規格内収量	規格別収量				
					2L	L	M	S	規格外
向陽2号	重量	kg/a	624	468	110	220	126	12	156
		%	100	75.1	17.6	35.3	20.2	2.0	24.9
	本数	本/a	3334	2333	400	1000	800	133	1000
		%	100	70.0	12.0	30.0	24.0	4.0	30.0
晩抽天翔	重量	kg/a	682	490	118	233	101	39	191
		%	100	71.9	17.3	34.1	14.9	5.7	28.1
	本数	本/a	3334	2533	400	1067	667	400	800
		%	100	76.0	12.0	32.0	20.0	12.0	24.0
紅みのり	重量	kg/a	721	474	111	260	82	20	247
		%	100	65.7	15.4	36.1	11.4	2.8	34.3
	本数	本/a	3334	2333	400	1200	533	200	1000
		%	100	70.0	12.0	36.0	16.0	6.0	30.0
YCC129	重量	kg/a	495	264	35	109	88	33	231
		%	100	53.3	7.0	22.0	17.7	6.6	46.7
	本数	本/a	3334	1600	133	533	600	333	1733
		%	100	48.0	4.0	16.0	18.0	10.0	52.0

品種	項目	規格内 (%)	規格外 (%)	規格外内訳 (%)								他の内訳 (%)		
				小根	大根	裂根	岐根	皮目	曲根	着色	他	変形	粗皮	他
向陽2号	重量	75.1	24.9	2.2	3.6	5.2	0.0	0.0	3.3	0.0	10.7	7.2	3.5	0.0
	本数	70.0	30.0	6.0	2.0	4.0	0.0	0.0	4.0	0.0	14.0	10.0	4.0	0.0
晩抽天翔	重量	71.9	28.1	0.0	11.8	8.6	0.0	0.0	3.9	0.0	3.7	0.0	3.7	0.0
	本数	76.0	24.0	0.0	6.0	8.0	0.0	0.0	4.0	0.0	6.0	0.0	6.0	0.0
紅みのり	重量	65.7	34.3	0.0	6.6	9.0	0.0	0.0	0.0	0.0	18.7	2.2	16.5	0.0
	本数	70.0	30.0	0.0	4.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	18.0	2.0	16.0	0.0
YCC129	重量	53.3	46.7	2.1	0.0	7.0	0.0	0.0	17.9	0.0	19.7	11.8	7.9	0.0
	本数	48.0	52.0	6.0	0.0	6.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	10.0	10.0	0.0



写真1 生育状況 (7月2日)



写真2 生育状況 (8月24日)



写真1 収穫調査 (8月24日)



写真2 収穫調査 (8月24日)

農業関係試験成績書

令和4年3月 印刷・発行

発行 岩見沢市

協力 空知農業改良普及センター
JAいわみざわ
北海道農業研究センター
北海道中央農業共済組合

編集 岩見沢市農業技術情報施設
土壤分析施設
北海道岩見沢市北村栄町591番地4
郵便番号 068-1204
電話番号 0126-56-2538
F A X 0126-56-2641
農業試験圃
北海道岩見沢市北村豊里675番地2
郵便番号 068-1205
電話番号 0126-56-2314

農業技術専門員
水稲・麦担当 西飯 弘行
大小豆・園芸担当 杉浦 輝陽
土壤診断担当 菅原 敏治